

伊藤正信譯述  
 喝氏初學人身窮理  
 卷下

福岡第一師範學校  
 (學校圖書)

登錄 書號	第	號
自然科學部		門
醫學部		部
生理學	數	項
目		次
全	冊/內第	冊
分卷	類號	第
	492.0	號

校學館師司

書 冊 物

番 14  
 冊 2  
 冊/內 2

T1A1

49

189

喝氏初學人身究理卷下

播磨

伊藤正信

譯

第十九章 呼吸機論

(三四九)前既ニ述ルカ如ク食物ノ榮養分ハ頸ノ下  
 邊ニ於テ靜脈管ニ入り心臟ノ右房ニ至ルモノナ  
 レハ此房中ノ液ハ乳糜ト靜脈血ノ混淆セルモノ  
 ニシテ直ニ身體ヲ養フヲ得ス故ニ乳糜ハ化シテ  
 血液トナリ靜脈血ハ汚物(炭酸及水)ヲ脱シテ鮮血  
 トナラザル可ラズ此變化ヲ主宰スルモノハ即チ  
 呼吸機ナリ

呼吸機ノ解剖

(二五〇)呼吸機トハ肺氣管氣管支及氣胞ニシテ

(三四九)心臓ノ  
 右房ニ集マレ  
 液ハ何ナルモ  
 ノコレヲ榮  
 養液トナスハ  
 如何スヘキヤ  
 其變化ヲナ  
 モノハ如何ナ  
 ル機関ソ

(二五〇)(二五六)  
 呼吸機ヲ解剖  
 セヨ

(二五〇)呼吸機

呼吸機

ハ何ヤソ  
呼吸機ヲ助ク  
ルモノハ何々  
ソ  
三五二肺臓ハ  
如何ナルモノ  
ソ

三五三胸膜ト  
ハ何ソ  
其病ヲ何ト云  
フヤ

三五三氣管ト  
ハ何ソ

隔膜、肋骨及胸腹ノ筋肉モ亦タ其作用ヲ助ク  
三五二肺臓ハ其形圓錐狀ニシテ縦隔ト名クル膜ニ  
依テ左右ニ分タレ胸腔ノ兩側ニ位シ以テ心臟ヲ  
包ム其色ハ帶紅白色ニシテ黑色ノ班点ヲ以テ彩  
飾ス其構造ハ氣胞ト細管及ヒ微細ノ血管ヲ以テ  
成ルモノナリ

三五三肺臓ノ外面ハ胸膜ト名クルモノヲ以テ之  
ヲ被フ此膜ハ啞ニ肺ノ外面ヲ被フノミナラス尚  
ホ翻展シテ胸壁ノ内面ヲ被ヘリ故ニ肺臓ハ胸膜  
ノ内ニ非スシテ實ハ其外ニアリ○此膜ノ病ニ罹  
ルキハ之レヲ胸膜炎ト云フ

三五三氣管ハ胃管ノ前ニ位シ口ヨリ肺臓ニ達ス

三五四氣管支  
トハ何ソ  
氣管氣管支  
氣胞ハ之ヲ何  
ニ譬フヘキヤ

三五五氣胞ト  
ハ何ソ  
氣胞ノ最モ多  
キ部ハ何處ソ  
氣管支粘膜ノ  
病名ヲ問フ

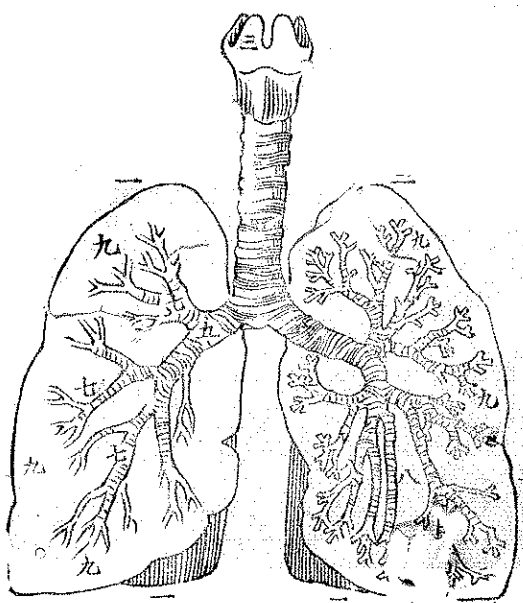
ル一氣道ニシテ彈力ヲ有スル軟骨環ハ連續シタ  
ルモノナリ

三五四氣管支ハ氣管ノ下端心臟上部ノ後方ニ於  
テ岐レタルニ支ニシテ其一ハ右肺ニ入り一ハ左  
肺ニ入り漸ク岐レテ無數ノ細支別トナルモノナ  
リ○之レヲ樹木ニ譬フレハ氣管ハ猶ホ其幹ノ如  
ク氣管支ハ二本ノ大枝氣管支ノ細支別ハ其小枝  
氣胞ハ初春小枝ニ生スル葉芽ノ如シ

三五五氣胞ハ氣管支細支別ノ末端ニ於ケル小囊  
ナリ其外壁ハ甚タ薄ク其内面共ニ氣管及ヒ氣管  
支ノ内面ハ粘膜ヲ以テ之ヲ被ヘリ氣胞ノ大枝ハ  
各部一様ナラス其數モ亦肺ノ中央ト下部ニ於

最モ多シトス。○大ナル氣管支ノ粘膜僅カニ筋ヲ  
 罹ルル片ハ之ヲ感冒トシ其微シク細管ニ迄テ片ハ  
 之ヲ氣管支炎トス。○咳嗽ハ氣道中ニ貯積セル物

第五十四圖

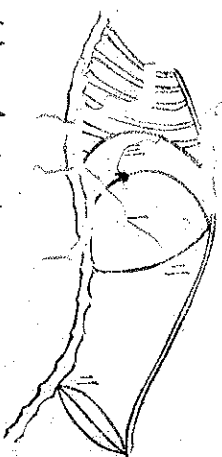


喉頭、氣管、氣管支  
 及氣胞ヲ示ス

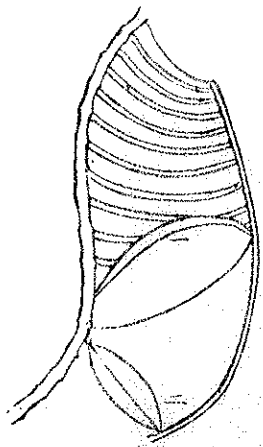
- (一) 右肺
- (二) 左肺
- (三) 喉頭
- (四) 氣管
- (五) 右氣管支
- (六) 左氣管支
- (七) 左右ノ小氣管支
- (八) 左右ノ小氣管支
- (九) 氣胞

或ハ亂入セル異物ヲ排除セシメ、為ニ激發スル所  
 ノ一大呼吸ナリ

○積或ハ羊ノ肺ヲ取り其氣管ニ一管ヲ挿入シテ  
 第五十五圖



第五十六圖



肺臟収縮シタルキノ  
 胸腔形ヲ示ス  
 (一) 横隔膜静止ノ位置  
 (二) 腹部ノ筋壁  
 (三) 膈筋中央ノ昇リタル  
 肺擴張シタルキノ  
 胸腔形ヲ示  
 (一) 横隔膜中央ノ下リタル  
 位置  
 (二) 腹部ノ筋壁

空氣ヲ吹キ  
 入レ或ハ其  
 諸部ヲ剖見  
 シ以テ肺ト  
 氣管ノ構造  
 ヲ察スベシ  
 (三五) 横膈  
 膜ハ圓形柔  
 軟ノ膜ニシ

第五十五圖ハ  
 何ヲ示スヤ  
 (三五) 横膈膜  
 トハ何ソ  
 第五十六圖ハ  
 何ヲ示スヤ

何 横隔膜ノ形如  
空氣ヲ呼出シ  
タル片最上点  
ハ何處ニ達ス  
ルヤ  
空氣ヲ吸入シ  
タル片ハ如何

(三五七)呼吸ノ生理  
呼吸ノ生理  
ヲ問フ  
(三五七)呼吸ト  
ハ何ソ  
其主用如何

(三五八)胸腔ハ  
如何シテ擴張  
スルヤ

呼吸機ト消化機ヲ隔テ、胸腔ト腹腔ノ分界ヲ  
ナス其周縁ハ脊骨、胸骨、肋骨及ヒ肋軟骨ニ附着シ  
此膜ノ上面ハ穹窿ニシテ胸腔内ニ向ヒ呼吸ニ從  
テ常ニ昇降ス其昇ル片ハ第四ノ肋骨ニ達シ其最  
モ降ル片ハ第七ノ肋骨ニ至ル、ノナリ

呼吸機ノ生理

(三五七)呼吸ハ肺臟ニ空氣ヲ吸入シ又呼出スルノ  
作用ニシテ其主用ハ静脈血中ノ不潔物ヲ除去ス  
ルニ在リ

(三五八)將ニ空氣ヲ吸入セントスルキハ横隔膜ノ  
周縁肉質部ノ收縮スルヲ以テ其中央低下ス故ニ  
胸腔ハ自ラ開張シ腹腔ハ自ラ縮小ス加之ナラス

(三五九)胸腔ノ  
縮張スルキ肺  
臟ハ如何シ  
テ生ズルヤ

(三六〇)肺中ノ  
空氣ヲ逐出ス  
ルハ如何ノ作  
用ソ  
之レヲ名ケテ  
何ト云フヤ

胸壁ノ諸筋肋骨ヲ挈上シテ微ク前ニ反シ以  
テ胸腔ノ開張ヲ助クルモノナリ

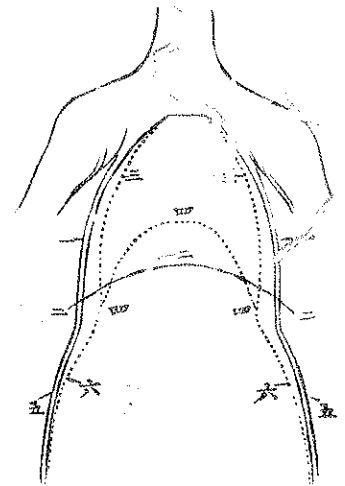
(三五九)胸腔ノ縮張ニ從テ肺臟モ亦縮張ス即チ胸  
腔開張スルキハ肺ノ氣胞モ擴張シ胸腔收縮スル  
片ハ氣胎モ亦縮小ス而シテ肺臟ノ擴張スル片ハ氣  
胞中ノ氣壓減少スルニ依リ外氣ハ自家ノ壓力ヲ  
以テ鼻口ヨリ氣管ヲ經過シテ氣胞中ニ竄入ス是  
即チ呼吸ナリ

(三六〇)胸腔一タヒ開張スレハ既ニ肋骨ヲ挈上シ  
タル筋及ヒ横隔膜弛緩シ肋骨ハ肋軟骨ノ彈力ニ  
依テ其故位ニ復シ以テ肺臟ノ空氣ヲ排出ス且チ  
腹部ノ筋肉收縮シ胃腸及肝臟ハ其故位ニ復シテ

(三六一) 幾何ノ法ノ依テ胸腔擴張スレヤ開ク何々ソ

横隔膜ニ迫リ肺臓ヲ壓シ以テ殘餘ノ空氣ヲ排出ス是レ即チ呼吸ナリ  
 (三六一) 是ニ由テ之ヲ見レハ胸腔ノ開張即チ呼吸ハ横隔膜中央ノ低下スルト肋骨ノ舉上スルトニ依テ生シ胸腔ノ縮小即チ呼吸ハ横隔膜ノ上昇スルト肋骨ノ故位ニ腹スルトニ依テ生マルモ

第五十七圖 呼吸間胸腔ノ位置ヲ示ス



- (一) 呼吸ニ於ケル胸壁ノ位置
- (二) 呼吸ニ於ケル横隔膜ノ位置
- (三) 呼吸ニ於ケル胸壁ノ位置
- (四) 呼吸ニ於ケル横隔膜ノ位置
- (五) 呼吸ニ於ケル腹壁ノ位置
- (六) 呼吸ニ於ケル腹壁ノ位置

依テ生シ胸腔ノ縮小即チ呼吸ハ横隔膜ノ上昇スルト肋骨ノ故位ニ腹スルトニ依テ生マルモ

(三六三) 汚血ヲシテ身體ノ養ヲナサシムルニハ如何スヘキヤ

(三六三) 汚血ノ暗色ナルハ何故ソ其瓦斯ノ生スル理如何

ノニノ生涯此運動ノ止ムトナシ是レ人ノ生活スル所以ナリ○胸廓上ニ耳ヲ附スレハ内ニ颯々タル聲アリテ恰モ微風ノ森林ニ激スルニ似タルヲ聽是即チ肺臓ニ空氣ノ出入スルニ依テ生スル聲ナリ任シ小兒ニ就テ之ヲ驗スレハ甚タ明カナリ  
 (三六二) 前章既ニ論セシ如ク心臟ヨリ肺臓ニ至ル血液ハ暗紫色不潔ニシテ榮養ヲナスヘキモノニ非ス然レモ其汚物ヲ除キ去ルキハ化シテ紅色清潔ノ血トナリ以テ身體ヲ養フモノナリ  
 (三六三) 静脈血ノ暗紫色ナルハ其中ニ炭酸瓦斯ヲ含ムカ故ナリ但炭酸瓦斯ナルモノハ血脉中ニ於テ炭素ト酸素ト抱合セルモノニシテ呼吸ニ依テ

(三六四)汚血ハ  
炭酸ノ他何  
含ムヤ  
呼氣中ニ炭酸  
及ヒ水蒸氣ヲ  
含ムノ証如何

体外ニ排除セララル、モノナリ

(三六四)呼氣ハ炭酸ヲ含ムノ外水蒸氣ヲモ含ム  
ノナリ○呼氣中炭酸ト水蒸氣ヲ含ムトヲ證セン  
ト欲セハ宜ク左ノ試檢ヲナスベシ

第一 石灰水中ニ一管ヲ挿入シテ上口ヨリ之  
ヲ吹ク片ハ數分時ニシテ其水乳白色ヲ呈ス  
コレ石灰ト炭酸ト抱合シテ炭酸石灰即チ白  
堊ヲ生スルカ故ナリ

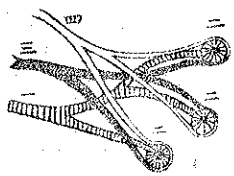
第二 明鏡ニ呼氣ヲ吹キ掛クレハ其氣忽チ凝  
チ露トナリ以テ鏡面ニ滴ル是レ肺氣ニ含メ  
ル水蒸氣ノ収縮スルモノナリ又温暖ノ候ニ  
ハ呼氣ニ含有スル水蒸氣ニ見ル能ハスト雖

(三六五)空氣ハ  
何々ヨリナル  
ヤ  
酸素ハ何ノ用  
アリヤ  
窒素ハ如何

凡寒日ニ於テハ呼息ニ從テ鼻口ヨリ水蒸氣  
ノ出ルヲ見ルナリ

(三六五)大氣即チ吾人ノ常ニ嘘翕スル所ノモノハ  
原ト酸素ト窒素ノ二氣ヨリ成ル而シテ酸素ハ生命  
ヲ維持スルニ至要ノモノナリト雖モ窒素ハ否ラ  
ス若シ唯窒素ノミヲ吸フ片ハ忽チ呼吸窒塞スヘ  
シ然レテ酸素ハ其性激烈ニシテ若シ純酸素ヲ呼

第五十八圖



(一)氣管支  
(二)(三)氣胞  
(四)肺動脈支別  
之ニ依テ汚  
血氣胞ニ達ス  
(四)肺靜脈起端  
之ニ依テ鮮血  
心臟ニ返ル

吸スル片ハ一時神思ヲ  
發揚シ氣力ヲ興奮スル  
ト雖モ終ニ腦髓ヲ侵シ  
テ死ヲ招クモノナリ故  
ニ造化主之ニ窒素ヲ配



三六六) 空氣ノ  
作用ニ依テ血  
液ノ變化スル  
理ヲ解セヨ

伍シ以テ濃淡ヲ調和セルナリ

(三六六) 既ニ呼吸機ノ用ヲ説キ終リタレハ爰ニ肺  
臟ニ於テ血液空氣ニ觸接シ以テ生スル處ノ變化  
ヲ陳ヘン心臟ニ集リタル汚血ハ肺動脈ニ依テ肺  
臟ニ入り氣胞ノ周圍ヲ通過ス此時胞内ノ酸素ハ  
膜ト血管ヲ穿チテ血液ニ結合シ血中ニ含ムル炭  
酸及ヒ水蒸氣ハ脉管ト氣胞ヲ穿チテ胞内ノ空氣  
ニ混シ呼吸ニ依テ体外ニ謝シ去ル斯ノ如ク瓦斯  
体互ニ交換スルヲ以テ血色變シテ鮮紅トナルナ  
リ○薄膜ヲ穿チテ瓦斯体ノ交代スルヲ證セント  
欲セハ動物ノ暗色血ヲ膀胱ニ充テ其口ヲ閉チテ  
氣中ニ繫垂スヘシ斯ノ如クシニ二三時間ヲ經ル

三六七) 呼吸機ノ健全  
法ヲ陳ヘヨ

三六七) 健康ヲ  
保全セシムルハ  
如何ナルヲ  
要スルヲ  
空氣ハ如何チ  
ルモノヲ純粹  
トナスヤ

片ハ血色變シテ鮮紅色トナル是レ氣中ノ酸素ハ  
膀胱ヲ穿チテ血液ニ結合シ血中ノ炭酸ハ膀胱ヲ  
穿チテ逃出シタルカ故ナリ

### 呼吸機ノ健全法

(三六七) 身體ノ健康ヲ保タント欲セハ汚血ヲ化シ  
テ鮮血ト為サ、ル可ラス而シテ此變化ヲナスモ  
ノハ肺臟ニ出入スル空氣ノ作用ニ係ルモノナレ  
ハ吸氣ハ最モ清潔ナランヲ要ス但シ空氣ハ其  
百分中酸素二十一分ト窒素七十九分ヲ含ムヲ純  
粹ノモノトス

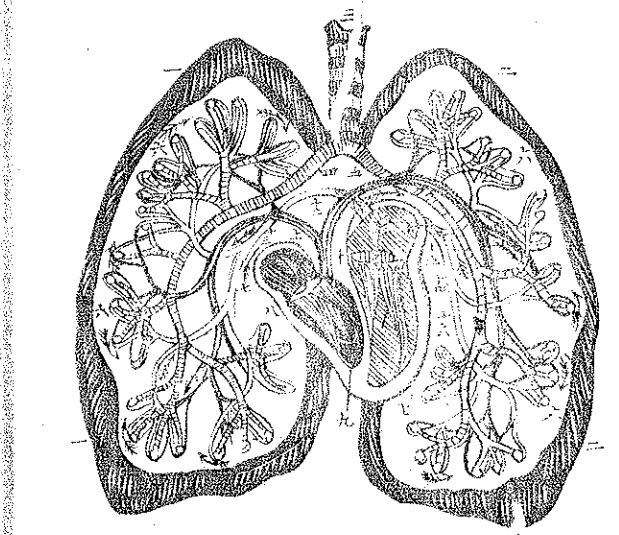
(三六八) 呼吸機  
吸氣ニ如何チ  
小差異アルヤ  
如何シテ之ヲ

(三六八) 空氣ハ呼吸ニ依テ其質ヲ變ス即チ呼吸機中  
窒素ノ量ハ吸入ノ片ト異ナルヲ示ト雖モ酸素



ハ大ニ其量ヲ減シ之ニ代フルニ炭酸ヲ以テス故  
ニ一タヒ肺ニ入リタル氣ハ再ヒ之ヲ吸フ可ラス

第五十九圖 肺循環ノ想像圖



- (一) 右肺
- (二) 左肺
- (三) 氣管
- (四) 右氣管支
- (五) 左氣管支
- (六) (六) 氣胞
- (七) 右心房
- (八) 右心室
- (九) 三尖瓣膜
- (十) 肺動脈
- (十一) 右肺動脈
- (十二) 左肺動脈
- (十三) 右肺靜脈
- (十四) 左肺靜脈
- (十五) 左心室
- (十六) 僧帽瓣膜

○呼氣ノ炭酸  
ヲ含ムルハ左  
ノ試験ヲモツ  
テ証スヘシ  
廣口ノ壺ニ水  
ヲ満テ之レヲ  
顛倒シテ水槽  
中ニ挿入シ曲  
管ヲ以テ呼氣  
ヲ吹キ入レ其

壺内ニ満ツル片之ヲ正置シ而シテ点火セル蠟燭  
ヲ入ルレハ其火ハ次ス消テルモノナリ然レハ壺  
内ノ呼氣ニ代ルニ空氣ヲ以テスレハ燈火ノ勢力  
恰モ壺外ニ在ルカ如シコレニ依テ壺内ノ氣前回  
ハ炭酸ヲ含ミ後回ハ否サルヲ知ル蓋シ炭酸ハ  
其性火ヲ養フモノニ非レハナリ但シ壺内ノ炭酸  
ヲ放出セント欲セハ宜シク壺ヲ倒マニスヘシ炭  
酸ハ空氣ヨリモ重キヲ以テ其口ヨリ流出スル  
恰モ水ノ流出スルカ如シ○炭酸ノ集積シタル地  
或ハ酸素ノ欠乏スル處ニハ燈火ノ滅スルモノナ  
リ故ニ古井或ハ久シク閉チタル土窖等ニ入レン  
トスレハ先ツ試ミニ燈火ヲ下シ若シ其消滅スル

(二六九) 多人數  
群集シ且ツ空  
氣ノ流通宜シ  
キハ其氣ヲ呼吸スヘカラス一室ニ多人數群集シ  
テ空氣ノ通暢宜シカラサルキ室内ノ空氣ハ常ニ  
酸素ノ減少ト炭酸ノ増加スルノミナラス尚ホ各  
人ノ肺ト皮膚ヨリ發スル有害物ノ為メニ甚々汚  
穢モトナル斯ノ如キ時ニ於テハ燈火ノ勢力  
大ニ衰へ愈々酸素ノ費フルニ從ヒ光明益々微ト  
ナリ終ニ殆ト消滅スルニ至ルハシ○嘗テ米國ノ  
某學校ニ於テ演說會ヲ開キ聽衆群集セシニ燈火  
ノ勢力次第ニ衰へ終ニ殆ト暗黒トナレリ此時各

人頭痛眩暈等ヲ起シ苦惱ニ堪へスモ多クハ其席  
ヲ退ケリ然ルニ其後僅ニ數分時ヲ經テ燈火再ヒ  
勢ヲ得光明故ニ復セシトアリ是即チ人數ノ減少  
シタルト窓戸ヲ開キタルニ依リテ空氣ノ交換セ  
シリ故ナリ○英領印度ノカルコッタニ於テ黒窟  
ト名クル牢獄アリ其名ノ因テ起ル所以ハ其廣サ  
縱横各十八尺ニシテ空氣ノ流通スヘキハ其一方  
ニ小窓唯二個アルノミナレハナリ嘗テ此内ニ一  
百四十六ノ囚人ヲ入レ十時間ヲ經テ之ヲ開キシ  
ニ存命ノ者ハ僅ニ二十三人ニシテ他ハ悉ク死亡  
セリト云フ

(二七〇) 寺院議事堂及學校ハ如キハ空氣ハ流通  
セリト云フ

(二七〇) 寺院議  
事堂等ハ空氣

ノ流通ヲ宜シ  
ラザルハ何故  
学校ニ就テ注  
意スヘキハ如  
何ナルコト

三七二 吾人ハ  
如何シテ室内  
ノ空氣ノ漸ク  
汚ルヲ感シ  
得ルヤ  
三七三 居室ヲ  
造ルニハ如何  
ナルヲ要ス  
ナスヤ

宜クスヘシ否サレハ此内ニ集ルモノハ不潔ノ空  
氣ヲ呼吸シ頭痛眩暈等ノ為メニ苦シメラルヘシ  
○方今學校ニ用ヒタル家屋ハ空氣ノ流通宜シカ  
ラス故ニ毎時五分或ハ十分ノ休憩時間ヲ設ケ生  
徒ヲシテ戶外ニ出テ新鮮ノ空氣ヲ吸ハシムヘシ  
且ツ其間各室ノ窓戸ヲ開キ室内ノ氣ヲ交換セシ  
ムヘシ

三七二 吾人室内ニ在ルル其空氣ハ漸ク不潔トナ  
ルヲ感シ得ルナリ即チ神經ノ感覺漸ク鈍ク身ニ  
倦怠ヲ覺フルヲ以テ之レヲ知ル

三七三 居室ヲ造ルニハ空氣ハ通暢ヲ宜クシ且ツ  
温暖ナラシムヘシ人ノ呼吸スル毎ニ呼氣ヲ戶外

三七三 外氣ヲ  
容易ニ入ラシ  
ムルハ如何ス  
ヘキヤ

三七四 格段ニ  
空氣ノ通暢ヲ  
要スルハ如何  
ナル室ノ  
病者ノ枕邊ニ  
屏風ヲ立ルハ  
何故アシキヤ  
三七五 肺臟ニ  
入ル處ノ空氣  
ノ量ハ何ニ依

ニ放チ同量ノ外氣ヲ室内ニ入ラシメサレハ空氣  
ノ流通充分ナリトスヘカラス故ニ天井ニ一孔ヲ  
穿ツカ或ハ煙筒ニ沿ヒ別ニ一管ヲ設ケ以テ汚氣  
ヲ散スヘシ

三七三 又窓戸ノ罅隙ハ新氣ヲ入ラシムルニ充分  
ナラサレハ室ノ外壁ニ於テ牀ニ近ク一孔ヲ穿チ  
以テ容易ニ外氣ヲ入ラシムヘシ

三七四 病室ハ殊ニ注意シテ空氣ノ通暢ヲ宜クス  
ヘシ屏風ヲ以テ枕邊ヲ圍ミ或ハ衣類ニテ病者ノ  
面ヲ掩フカ如キハ甚タ害アリ

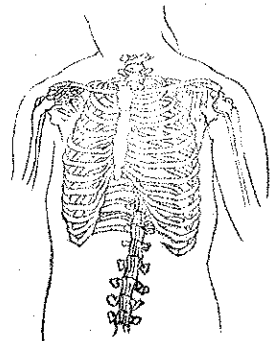
三七五 肺臟ニ於テ汚血ノ鮮血ニ化スルハ啻ニ空  
氣ノ清潔ナルニ依ルノミナラス尚ホ其量ニ関ス

テ變スルヤ

(三七六)如何ス  
レハ胸腔及ヒ  
肺臓ノ大サヲ  
減スルヤ

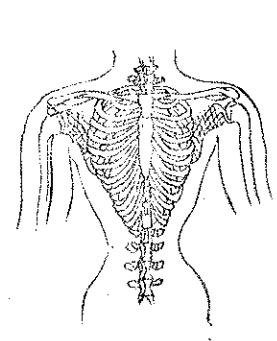
ルモノナリ而シテ其量ノ多少ハ胸腔ノ廣狹及ヒ  
肋骨ノ運動ニヨリテ變スルモノナリ  
(三七六)胸腔及ヒ肺臓ハ輕壓ト雖壓之レテ壓スル  
ト久シケレハ為メ  
ニ其大サヲ減スル  
モハナリ殊ニ幼年  
ノ際ハ硬骨軟骨共  
ニ甚ダ柔軟ナルヲ  
以テ其狹小トナル  
ト最モ容易ナリ○  
支那ノ婦人ハ足ノ  
小ナルヲ貴ミ女子

第十六圖



胸廓ノ正  
シキ形

第十六圖



胸腔ノ不  
正ナル形

小ナルヲ貴ミ女子

(二七七)寬裕ノ  
衣服ヲ着タル  
小兒ノ胸廓ハ  
其大サ如何  
肺ノ病ヲ患ヒ  
ルハ如何ナ

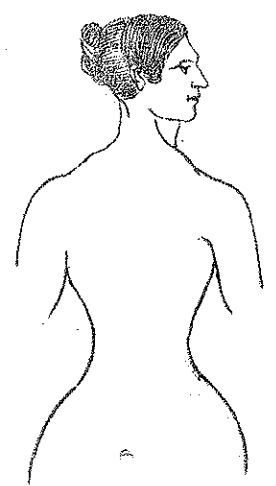
ハ足ヲ壓シテ其生長ヲ妨ク故ニ諛國ニテ美婦人  
ト稱スルモノ、足ハ甚ダ小サクシテ其大サ米國  
ニ於ケル五歳ノ女子ニ及ハス又米國ノ婦人ハ胸  
部ノ小ナルヲ貴ミ胸廓ヲ壓シテ其生長ヲ妨ク故  
ニ米國ニ於テ美婦人ト稱スルモノ、胸廓ハ支那  
ニ於ケル五歳ノ女子ニ及ハス知ラス聰明穎智ノ  
權衡何レノ國ヲ重シトスルヤ  
○胸當或ハ胸衣ノ緊密ナルモノヲ着スル時ハ胸  
腔ヲ狭ムルノ患アリ  
(二七七)小兒ノ際緊密ノ衣服ヲ着サレハ胸廓ト腎  
ノ周圍ハ殆ト相同シ壯年ニ至ルモ衣類ヲ以テ壓  
スルヲナケレハ生涯其形ヲ變セサルヘシ斯ノ如

ル人ッ  
可也

ク胸廓殊ニ其下部ノ大ナルモノハ其小ナルモノ  
ニ比スレハ肺臓ノ病ヲ患フルヲ甚ク少シ

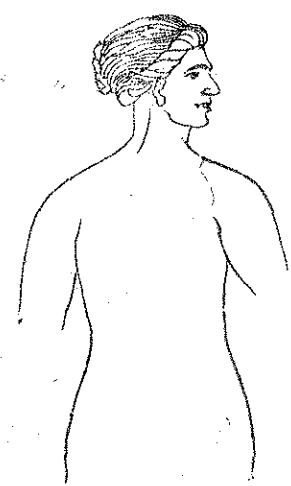
(二七八) 雁縮シタル胸廓ハ再  
ヒ擴大ナラン  
メ得ベキヤ  
其法如何スヘ  
キヤ  
學生ノ如キ久  
シク坐スルモ  
ノハ如何スヘ  
キヤ

第六十二圖



入エテ以テ  
胸腹ヲ狭ハ  
メ其肩ハ下  
ニ聳ハ大ニ  
シテ天然ノ  
美ヲ害セリ

第六十三圖



天然ノ恰好  
ヲ害セサル  
モノ

(二七八) 衣類ノ密ナルカ或ハ他ノ原因ニ依テ一タヒ胸腔ノ狭小トナルモ其年齢未タ三十ヲ起ヘサル片ハ肋骨反ヒ横隔膜ノ運動ヲ自在ナラシメ再ヒ故形ニ復スル

一得ヘシ○學生其他晝間久シク坐スル者ハ屢々大息シテ最小ノ氣胞ニ至ルマテ充分空氣ヲ満タシムヘシ但シ其際ハ頭ヲ直クシテ肩ヲ後方ニ張ルヘシ

(二七九) 衣服ヲ以テ胸廓ヲ壓スレハ其害如何

(二七九) 肺臓ニ空氣ノ満ル際ハ胸壁各方ニ開クモノナリ然ルヲ若シ衣類ヲ以テ胸腔并ニ腹腔ノ擴張ヲ妨碍スレハ空氣ノ肺ニ満ツルヲ充分ナラスシテ汚血ヲ清血ニ化スル能ハス斯ノ如ク身体保全ノ法則ニ戾ル者ハ其哥トシ病ノ為メニ苦メラル、モ、ナリ○輕履ノ胸腔開張ヲ妨碍スルヲ甚々信シ難キカ如シト雖モ試ミニ紐ヲ以テ胸廓ノ下部ヲ卷キ肺ヲ充分擴ケントスレハ肋骨ノ運動

日初

(二八〇) 身体ノ  
姿勢、肋骨ト横  
隔膜ノ運動ニ  
関スルヲ陳  
ス

(二八一) 精神ノ  
感動ニ依リ呼  
吸ニ變態ヲ生  
スルヤ

(二八二) 溺死者  
ヲ救ハントス  
ルハ如何スヘ  
キヤ

自在ナラサルヲ覺フ以テ之ヲ證スヘシ

(二八〇) 身体ノ姿勢ニヨリ肋骨ト横隔膜ハ運動ニ  
差異アリ即チ起坐共ニ肩ヲ後方ニ張り其体ヲ正  
直ニスレハ肋骨横隔膜筋等ノ自在ニ運動スルヲ  
得テ肺臓モ亦充分擴張スルヲ得ルモノナリ

(二八一) 精神ノ感動ニ依テ呼吸ニ變態ヲ生ス若シ  
愁歎或ハ苦慮スルキハ横隔膜及ヒ胸部筋肉ノ収  
縮力自ラ弱ク歡樂愉快ヲ覺フルキハ其力自ラ強  
キモノナリ

(二八二) 溺水假死セルモノハ救ハントスルニハ手  
ヲ其胸ニ宛テ下ト後ニ向テ急ニ壓シ又急ニ放チ  
斷テ不如此シテ空氣ヲ呼吸セシムヘシ或ハ送氣

韃筒ヲ取り其端ヲ口中ニ入レテ舌根ニ迫ホシ手

拭ヲ以テ口ト鼻トヲ掩ヒ別ニ一人ヲシテ頭部ノ  
前面ニ於ケル「アダム」ノ林檎ト名クル突起喉頭ヲ

押ヘシメ韃筒ヨリ空氣ヲ吹キ入レ肺臓ニ滿ツレ  
ハ手ヲ以テ胸廓ヲ壓シテ之ヲ呼カシメ以テ自然

ノ呼吸ニ似スヘシ

(二八三) 右ノ療法ハ假令蘇生ノ徵ナキモ一二時間  
ハ必ス之レヲ試ムヘシ又温カクシテ乾キタル「グ  
ランケット」ヲ以テ体ヲ包ミ之ヲ火邊ニ近カツケ  
以テ温ヲ與フヘシ但シ肺臓ニ空氣ヲ滿タスヲ著  
一トスレハ其他ノ療法ハ九テ之ヲ後チニスヘシ  
又死者ノ蘇生スルニ非レハ決シテ其体ヲ摩擦ス

(三八四) 盛死シ  
タハニハ救  
ハシメスレハ  
如何イハキヤ  
又雷ニ撃タレ  
テ死シタルモ  
ノヲ救フハ如  
何スヘキヤ

(三八五) 炭酸瓦  
斯ヲ吸入シテ  
死セルモノヲ  
救フニハ如何  
スヘキヤ

ヘカラス

(二八四) 縊死セル者ヲ救ハントスルニハ直ニ其紐  
ヲ斷チ溺死者ヲ救フカ如ク人工呼吸法ヲ施スヘ  
シ又雷ニ撃タレテ氣絶シタル者ニモ此法ヲ施シ  
テ可ナリ○國ニヨリ檢屍官ノ許可ヲ得サレハ縊  
者ノ紐ヲ解クヘカラサルノ法アリト雖氏其猶豫  
ヲナスノ間ナク若シ之ヲ急ル片ハ時機ヲ失シテ  
復々救フ能ハサルノ恐アルナリ

(二八五) 炭酸瓦斯ヲ吸入シテ失命スルモノハ直ニ  
之ヲ開豁ナル大氣中ニ置キ頭ト肩ヲ以シク擡ケ  
面部ト胸部ニ冷水或ハ酢ト水ヲ混シタルモノヲ  
洒ルニ反チ粗布或ハ刷子ヲ以テ皮膚ヲ摩擦シ且ツ

人工呼吸法ニ施スヘシ○寢室ヲ温メントシテ爐  
中ニ木炭ヲ焚キ為メニ炭酸ヲ生シテ絶命スルモ  
ノ多シ斯ノ如キモノヲ救ハントスルニ若シ鞴筒  
ヲ得ル能ハサレハ人ノ呼吸ヲ其口ニ吹き入レ次  
ニ胸廓ヲ壓シテ之ヲ呼カシメ以テ自然ノ呼吸ニ  
似スヘシ但シ呼吸ヲ吹き入ルニハ其氣ノ可及的  
清潔ナラレトヨ要フ故ニ空氣ヲ速ニ吸入シテ又  
速ニ呼キ入ルヘシ○凡テ斯ハ如キ片ハ死者ヲ開  
豁ハ大氣中ニ置キ直ニ醫師ヲ迎フハ最良ハ法ト  
ス

第二十二章 体温

(三八六) 体温ノ  
原因ハ詳カナ

(三八六) 体温ハ未タ其原因ヲ詳カニセスト雖モ其



ルヤ  
三三七) 人身ノ  
体温ハ炭度ナ  
ルヤ

動植物ノ生育ニ欠クハカラサルヲ甚タ明カナリ  
三三七) 人身ノ体温ハ凡ソ華氏ノ九十八度ニシテ  
アイスランドノ如キ寒國ニ住ムモノモ印度ノ如  
キ熱國ニ住スルモノモ其温度ノ異ナルヲヤシ

三三八) 体温ニ  
就テ如何ナル  
疑問アリヤ

三三八) 斯ノ如ク寒熱至極ノ地ニ住スルモノ、温  
度ニ差異ナキヲ以テ爰ニ二條ノ疑問アリ  
第一條 温ハ如何ナル機關ニ依テ生スルヤ  
第二條 体温ニ差異ナキハ何ノ作用ニ依ルヤ

三八九) 薪炭脂  
油等ノ燃燒ニ  
依テ生スルモ  
ノハ何ソ

三八九) 薪炭脂油等ノ燃燒ニ於テ熱ヲ發スルハ其  
中ニ含ミタル炭素及ヒ水素ノ氣中ノ酸素ト抱合  
シテ炭酸及水蒸氣ヲ生スルニヨルモノナリ

三九〇) 燃燒ニ  
依テ生スル熱

三九〇) 燃燒ニ依テ生スル熱ノ量ハ之ニ費シタル

ノ量ハ何ニ比  
例スルヤ  
其例ヲ舉ケヨ

炭水ニ素ノ量ニ比例ス故ニ重サ一斤ノ薪ニシテ  
徐々ニ燃燒スル片モ同質同重ノ鈍屑ニシテ迅速  
ニ燃燒スル片モ其熱量ニ差異アルヲナシ今人身  
ノ体温モ右ノ理ニ依テ之ヲ會得スヘシ

三九二) 体内ニ  
存スル炭水ニ  
素ノ源ハ何ソ

三九二) 食物ハ炭素ト水素ヲ含ムカ故乳糜モ亦々  
之レヲ含ミ又体内ノ老廢物中ニモ同質ノ存スル  
モノナリ今肺臟ニ吸入シタル氣中ノ酸素ハ血液  
ニ混シテ肺臟ニ入り夫ヨリ体内ノ諸部ニ於ケル  
所謂營養動脈ニ至ルモノナリ

三九三) 酸素ハ  
營養動脈ニ入  
テ何ヲナスヤ

三九三) 酸素已ニ營養動脈ニ至レハ老廢物(水脈ニ  
依テ血中ニ入ル)ノ炭水ニ素ト抱合シテ炭酸及ヒ  
水ト一ル

三九三 体内ノ各部ニ温ノ生スル理如何

三九三 体内ノ組織間ニ生スル此變化ニ依テ熱ヲ發シ炭酸ト水ハ血液ニ混シテ肺臟ニ至リ呼氣ト共ニ体外ニ謝シ去ル是レ体内各部ニ温ヲ發スル原因ナラン

三九四 体温ノ常ニ差異ナキハ何故ソ

三九四 体温ヲシテ常ニ差異ナカラシムルハ皮膚ト肺臟ヨリ發スル蒸氣ノ作用ナルヘシ

三九五 冷氣ノ皮膚ト肺ニ觸接スル片熱ノ發生如何

三九五 冷氣ノ皮膚及ヒ肺臟ニ觸接スル片ハ熱量増加シテ其平均ヲ得ントス但熱量増加ノ多寡ハ空氣變換ノ遲速ニ從テ變ス即チ乾燥空氣ノ強流ニ逢フ片ハ其量最モ多シトス

三九六 体内ノ餘温ハ如何シテ散スルヤ

三九六 日常皮膚ヨリ蒸氣ノ發スルニヨリ体内ノ餘温ハ之レト共ニ氣中ニ散ス是レ温度ニ差異ナク常ニ九十八度ヲ保ツ所以ナリ○熱病ヲ患フルモノハ其熱度非常ニ増加スト雖モ多量ノ汗ヲ發スル片ハ忽チ熱度ノ減スルモノナリ又炎熱ノ候一天曇リテ雨ヲ催ス片鬱熱ニ堪ヘ難キヲ覺フルモノハ氣中ニ多量ノ水氣ヲ含ムカ故皮膚ト肺臟ノ蒸發氣ヲ妨ケ体内餘温ノ散シ得サルカ故ナリ

三九七 人身ノ体温ハ何ニ依テ増減スルヤ

三九七 体温ノ量ハ食物ノ量及ヒ其質、年齢ノ老幼、身体ノ勞逸、吸入氣ノ量及其質、腦髓、皮膚及身體ノ状態ニ依テ變スルモノナリ

三九八 熱ヲ生スルハ食物中ニ含ミタル如何ナル原素ト

三九八 体温ハ食物ハ炭素ヲ含ムハ多量ト之ヲ食スル量ハ多量ニ依テ増減スルモハナリ薪ノ可燃

(二九九) 年齢ニ從テ温度ニ差異アルヤ  
多分ノ衣類ヲ要スルハ如何ナル人ソ

(三〇〇) 勞逸ニ依テ体温ニ増減アリヤ

質ヲ多量ニ含ムモノハ其發生スル熱量ノ多キカ  
如ク多量ノ炭素ヲ含ミタル食物ノ血中ニ入ルル  
ハ多量ノ熱ヲ生スルモノナリ  
(二九九) 年齢ニ從テ体温ニ増減アリ小兒ハ其生活  
力ノ弱キカ故体温ヲ生スルト壯年ノモノヨリモ  
少ナシ故ニ小兒ト老人ハ強壯ナル中年ノモノヨ  
リモ多分ノ衣服ヲ要スルモノトス  
(三〇〇) 身體ノ勞逸ニ依テ体温ニ増減アリ血液循  
環ノ速カナルキハ新成分ヲ給スルト老廢物ヲ  
除クトモ亦タ速カニシテ大ニ体温ヲ増スモノナ  
リコレ勞働者ノ懶惰者ヨリモ暖ヲ覺フル所以ナ  
リ

(三〇二) 吸入氣ノ酸素ハ何ニ比例スヘキヤ

(三〇三) 精神ノ状態ニ依テ体温ニ増減アルノ例ノ擧ケヨ

(三〇三) 睡眠中多分ノ衣類ヲ

(三〇二) 呼吸氣ハ量ト其質ニ依テ体温ニ増減アリ  
暖室爐ノ熱度ヲ高カ、ラシメンニハ木炭或ハ石  
炭ノ量ニ從テ空氣即チ酸素ヲ要ス人身ノ体温モ  
コレト同理ニシテ体内ニ存スル炭水ニ素ノ量ニ  
應シテ空氣ヲ要ス故ニ肺臟ノ健康ニシテ肋骨及  
横隔膜ノ運動ノ自在ナラントヲ要ス  
(三〇三) 腦髓及ヒ神經ノ状態ニ依テ体温ニ増減アリ  
例ハ驚愕恐懼スルキハ呼吸遲慢シテ全身寒  
戰ス就中四肢ヲ最モ甚タシトス之レニ反シテ歡  
樂ヲ覺アルキハ血液速ニ循環シテ大ニ温度ヲ増  
スカ如シ  
(三〇三) 睡眠ノ際ハ腦髓ノ作用休止シ体温ヲ生ス

十七

要スルハ何故

(三〇四)吾人ノ寒熱ニ堪ヘ得ルハ何故ソ

ル一甚タ少ナシ故ニ多分ニ衣類ヲ増サ、レハ或ハ邪氣ニ冒サル、トアリ  
(三〇四)外氣ノ温度徐々ニ増減スルハハ身體ヲ害スル、一甚タ稀ナリ身体ヨリ發スル蒸氣ノ量ハ外氣ノ温度ニ從テ増減シ以テ体温ヲ調和ス故ニ忽然温度ノ變スルニ非レハ身体ヲ害フノ患ト少ナシコレ吾人ノ能ク寒帶地方ト熱帶地方ノ寒熱ニ堪ヘ得ル所以ナリ

第二十三章 發聲機論

(三〇五)發聲機ノ解剖  
發聲機ヲ解剖セヨ  
(三〇五)發聲機ノ構造ヲ問フ其名ヲ問フ

(三〇五)發聲機ハ其構造甚タ單簡ナリト雖モ種々無量ノ聲音ヲ發シ人工ノ能ク擬シ得ルモノニ非ス生理學家之ヲ諸樂品ノ結合シタルモノニ比ス此

機關ハ即チ喉頭ナリ

發聲機ノ解剖

(三〇六)喉頭ハ如何ナルモノ

(三〇六)喉頭(アダムノ林檎)ハ一種ノ軟骨管ナリ其形チ倒圓錐ノ中空ナルモノニシテ上端ハ舌根ニ達スルモノナリ

(三〇七)喉頭ハ何ヲ以テ成ルヤ

(三〇七)喉頭ハ數片ノ軟骨ヲ以テ成ル而シテ其軟骨ハ互ニ相結合スルヲミナラス尚ホ舌骨下顎骨及氣管ニ連ナルモノナリ

(三〇八)聲帶トハ何ソ

(三〇八)喉頭ノ内部ニ於テ左右各二枚ノ膜襞アリ之ヲ聲帶ト云フ

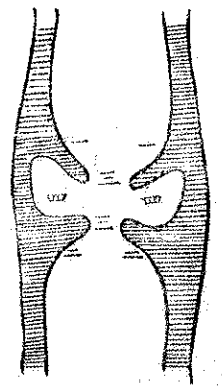
(三〇九)聲帶ト聲帶ノ中間ヲ何ト云フヤ

(三〇九)左右聲帶ノ中間ヲ聲門ト云ヒ上下聲帶ノ中間ヲ喉頭室ト云フ

第三一〇會厭軟骨ハ何處ニアリヤ

(三一〇)舌根ノ後部ニ會厭軟骨ト名クル一片ノ軟骨アリ其形ハ芹菜ニ似タリ其用ハ飲食物ノ氣管ニ入ルヲ防クモノナリ

第六十二圖 喉頭縱剖



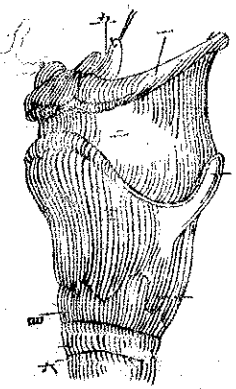
- (一) 上聲帶
- (二) 下聲帶
- (三) 聲門
- (四) 喉頭室

發聲機ノ生理

(三一〇) 既ニ記シタル各部ハ聲音ヲ發スルニ緊用ノモノトス諸軟骨ハ相依テ以テ喉頭ヲ形成シ且ツ之ヲ堅固ナラシム又之レニ附着セル筋肉アリ

第六十三圖ハ何ヲ示スヤ

第六十三圖 喉頭外側面



- (一) 舌骨
- (二) 甲状舌骨膜
- (三) 甲状軟骨
- (四) 環狀軟骨
- (五) 會厭
- (六) 氣管

テ聲門ノ廣狹ヲ主宰ス

(三一三) 呼吸ノ聲門ヲ過クルヤ其勢力強烈トル片ハ聲帶ニ激レテ之レカ顫動ヲ起シ以テ一種ノ音ヲ發シ齒牙、舌、唇ノ為メニ變シテ種々ノ語音トナル

(三一三) 喉頭ノ大小、肺臟ノ健不健、咽喉ト鼻孔ノ狀態ト舌ノ昇降又ヒ精神ノ狀態ニ依テ調聲ノ變スルモノナリ

發聲機ノ健全法

(三一四) 平素ノ習慣ニ依リテ調聲ノ變スルモノナリ水夫鍛工ノ如キ鬧噪ノ業ヲナスモノハ静寂ノ業ヲ操ルモノヨリモ發聲機ヲ勞スルト更ニ甚シ

(三一四) 習慣ニ依テ調聲ノ變スル例ヲ示ス

(三一三) 聲音ハ如何シテ發スルヤ

(三一三) 調聲ヲ變スルモノハ何々ソ

(三一五)如何ハ  
レハ聲音ヲ強  
ムルヤ

(三一六)体位ヲ  
正シクスレハ  
聲音ノ模様如  
何

故ニ此輩ハ發聲機ノ強壯ニソ音聲ノ高キモノナ  
リ  
(三一五)喉頭ト胸腔ハ大小ニ依テ聲音ニ高低アリ  
常ニ高聲ニテ書ヲ讀ミ或ハ歌ヲ唱フハ發聲機  
ヲ強壯ニシテ胸廓ヲ濶大ナラシム故ニ學校ニ於  
テ小兒ノ大聲ニテ書籍ヲ讀ムカ如キハ發聲機ヲ  
強壯ナラシメ且ツ咽喉及肺臟ノ病(喉頭炎氣管支  
炎)ヲ防クノ利アリトス  
(三一六)体位ノ正否ニ依テ調聲ハ變スルモノナリ  
即チ起坐ノ際頭ト軀幹ヲ直クスレハ壺ニ血液ノ  
自在ニ循環スルノミナラス尚ホ音聲ノ明カナル  
モノナリ○首ヲ垂レ又之レヲ直クシテ書ヲ讀ム

(三一七)頭部ノ  
筋ヲ廢スヘカ  
ラナルハ何故  
ソ  
聲ノ啞ルハ  
多ク何ニ依ル  
ヤ

片ハ發聲機ノ運動及音聲ノ變異ヲ覺フルモノナ  
リ

第六十四圖

体位ノ正  
シキ者



第六十五圖

体位ノ不正  
ナル者



(三一七)頭部ハ筋  
ヲ廢スベカラズ  
頭中或ハ他ノ衣  
類ニテ頭部ノ諸  
筋及ヒ喉頭ヲ廢  
スルハ壺ニ其  
働作ヲ妨グルノ  
ミナラス尚ホ音  
聲ノ弱クシテ明  
カナラサルモノ

トナルナリ。○演説者中間々音聲ノ嗅レタルモノ  
 アリ是レ多クハ衣類ヲ以テ頸部ヲ壓シタルト演  
 説中其體ヲ直クセサルニ依ルモノナリ。○演説或  
 ハ唱歌ノ際ハ多分ニ衣類ヲ着テ寒冷空氣ニ觸ル  
 ル可ラス  
 (三一八) 咽喉及ヒ鼻孔ハ状態ニ依テ調聲ヲ變ス  
 卽チ口ノ開閉自在ニシテ咽喉ト鼻孔ニ妨碍ナキ  
 片ハ聲音甚タ明カナリ  
 (三一九) 明カナル語音ヲ發セントスハ之ヲ及復  
 セントヲ要ス小兒ニ語音ヲ教フルニハ先ツ其体  
 ヲ直クシテ發聲機ノ働作ヲ自在ナラシメ而シテ  
 同シ語音ヲ再三及復シテ正音ヲ發セシムヘシ○

(三一八) 咽喉及  
 鼻孔ノ状態ニ  
 ヲリ聲音ヲ變  
 スルヲアリヤ  
 (三一九) 言語ヲ  
 及復スルヲハ  
 明カナル音聲  
 ヲ發スルニ要  
 アリヤ  
 小兒ニ正音ヲ  
 教フルハ如何  
 スヘキヤ

幼雅ニハ語尾ヲ長ク牽キ或ハ虚音ヲ教フヘカラ  
 ス是レ幼雅ハ不正ノ音ヲ發シ易キカ故ナリ  
 (三二〇) 幼雅ノ際ハ動モスレハ櫻實扣鈕ノ如キモ  
 ノヲ吞ムトアリ若シ誤テ之ヲ氣喉内ニ吸入スル  
 片ハ勿チ劇シキ焮衝ヲ起シ甚シキハ死ヲ致スモ  
 ノナリ斯ノ如キ片ニ於テハ其物ノ那處ニアリヤ  
 ヲ辨スルニ及ハス直ニ救助ノ術ヲ施スヘシ  
 (三二二) 救助ノ術トハ先ツ其胸ニ隻手ヲ宛テ他ノ  
 手ヲ以テ其脊ヲ二三回強ク擊ツナリ  
 第二十四章 皮膚論  
 (三二二) 皮膚ハ全身ノ外面ヲ蔽フ所ノ膜ナリ其状  
 小年ト婦人ニ於テハ柔軟滑澤ニシテ彈力アリ中

(三二〇) 物ノ氣  
 喉内ニ入ル片  
 ハ如何スヘキ  
 ヤ  
 (三二二) 皮膚ト  
 ハ何ソ



年ノ男子ニ於テハ強硬ニシテ粗糙ナリ老人ニ於テハ甚タ粗糙ニシテ皺癢ヲナスモノナリ

皮膚ノ解剖

(三二三) 皮膚ハ二層ヨリ成ル曰ク表皮曰ク真皮是レナリ

(三二四) 表皮即チ皮膚ノ眼ニ觸ル、部ハ元ト真皮ニ網羅スル微細ノ血管ヨリ滲液セル一種ノ液ナリ

(三二五) 此液漸ヘス真皮上ニ鬱積スルニ依テ其外面乾固シテ宛然微細ノ鱗狀物トナレリ○火傷ノ為ニ水胞トナル薄皮ハ即チ表皮ナリ又熱病ヲ患ヒ皮膚ヨリ脱落スルモノモ表皮ナリ

其名ヲ問フ  
(三二四) 表皮ノ原因ヲ問フ

(三二五) 表皮ハ如何シテ生スルヤ

(三二六) 身体ノ諸部ニ於ケル表皮ノ厚ヲ記セヨ  
表皮ノ最モ厚キハ如何ナル部

(三二七) 表皮ハ血脉及神經ヲ有スルヤ

(三二八) 表皮ノ状如何  
毛爪ハ何ニ屬スルヤ

(三二六) 表皮ハ知覺ノ敏捷ナル部分ニ在テハ甚タ薄ク運動スヘキ部分ニ在テハ柔カニシテ動キ易ク摩擦ヲ受タル部分ニ在テハ最モ厚クシテ硬キモノナリ○手掌足蹠ノ如キハ常ニ摩擦スルヲ以テ表皮最モ厚シ

(三二七) 表皮ハ血脉及神經ヲ有セス故ニ鍼ヲ刺シテ表皮下ニ及ホスモ其痛ヲ覺フルヲナク又血ノ迸出スルモノニ非ス

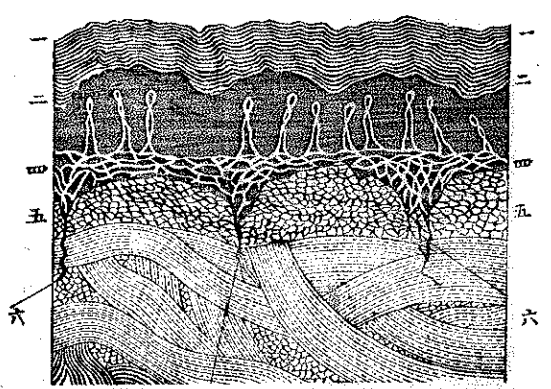
(三二八) 表皮ノ清潔ナルキハ其狀恰モ柔軟透明ナル角片ノ如シ然レ氏塵垢ノ為メニ汚ル、片ハ暗色ノモノトナル○毛髮爪蹄ハ皆ナ皮膚ニ屬スルモノニシテ表皮ト密ニ結合ス故ニ火傷ノ為ニ表

(三二九) 表皮ノ  
深層ニハ何ヲ  
含ムヤ

(三三〇) 真皮中  
ニ存スルモノ  
ハ何々ソ

皮ノ脱スル片ハ毛爪モ亦脱落ス  
(三二九) 表皮ノ深底ニ色素ヲ含有スル一層ノ新皮  
アリ其色亞非利加ノ土人ニ在テハ黒クシテ亞米  
利加ノ土人ニ在テ  
ハ銅色ヲ帯ヒ歐羅  
巴人ニ在テ白シ其  
他人種ノ異ナルニ  
從テ皆異ナリ

第六十六圖



- (一) 表皮
- (二) 表皮着  
色ノ層
- (三) 網狀  
神經
- (四) 真皮
- (五) 真皮
- (六) 神經

(三三〇) 真皮ハ皮膚  
中最要ノ部ニシテ  
動、脈、静、脈、及、水、脈、ヲ  
具ヘ且ツ脂腺、肝腺

(三三二) 動靜二  
脈ハ真皮上ニ  
在テ如何ナル  
狀ヲナスヤ  
真皮ヲ養フモ  
ノハ何ソ

(三三三) 皮膚ノ  
神經ヲ問フ  
乳嘴トハ何ソ  
乳嘴ハ何處ニ  
最モ著シキヤ

及神經ヲ有ス

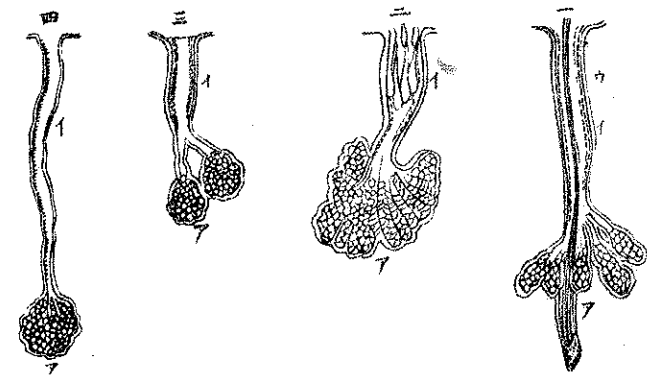
(三三二) 動靜ノ二脈ハ真皮ノ外面ニ於テ網狀ヲナ  
ス故ニ真皮ヲ傷クレハ處トシテ出血セサルハナ  
シ但シ皮膚ヲ養フモノハ此動脈ナリ○若シ刀傷  
或ハ火傷ノ爲ニ真皮ヲ毀潰スル片ハ再ヒ之ヲ生  
セス生涯其痕跡ヲ殘スモノナリ

(三三三) 神經モ亦々真皮中ニ甚タ多ク存在ス故ニ  
那處ヲ刺傷スルモ必ス痛ヲ覺フヘシ此神經ノ末  
端ハ毛細管ト共ニ皮膚ニ於テ微細圓錐狀ノ突起  
ヲナス之ヲ名ケテ乳嘴ト云フ(第六十八圖)○乳嘴  
ハ手掌足蹠ニ於テ之ヲ見ルヲ得ヘシ即チ指端  
ニ於テ或ハ楕圓狀ノ渦線ヲナシ或ハ蛇行ノ形ヲ

三三三皮膚、  
水脈ヲ開ク

見ハスモノコレナリ

第六十七圖



- (一) 頭皮ノ脂腺ト其管ヲ示ス
- (二) 毛根ノ周圍ニ集マリタル脂腺
- (三) 其管
- (四) 異部ノ脂腺ト其管ヲ示ス
- (ア) 汗腺
- (イ) 汗腺ノ管

三三三水脈ハ表皮ノ下層ニ於テ其口ヲ開ク故ニ

皮膚ニ軟膏ヲ塗ル

キハ坎ス之ヲ吸収

ス又種痘ノ術ヲ施

シ得ルモ此機關ノ

作用ニ依ルモノナ

リ

(三三四) 排汗ノ機關

ハ微細ノ管ニシテ

口ヲ表皮ニ開キ夫

ヨリ螺旋線状ヲナシ

三三四排汗機  
ノ構造ヲ問フ

(三三五) 脂腺ヲ  
記セヨ

テ真皮ノ深底ニ至リ一種ノ腺トナル之ヲ名ケテ  
汗腺ト云フ

(三三五) 脂腺ハ真皮中ニ存スルモノニシテ之レニ  
微細ノ管アリテ皮膚ノ外面ニ通ス或ル部ニ於テ

ハ全ク脂腺ヲ欠クト雖モ頭耳鼻ニ於テハ其用最

モ大ナルカ故其數モ最モ多シ○粉刺ナルモノハ

脂管内非常ニ脂肪ノ貯積シタルモノナリ

第二十五章 皮膚ノ生理

(三三六) 皮膚ハ身體ノ外面ヲ形成シテ内部ノ諸機

關ヲ守護ス

(三三七) 表皮ハ無感覺ノモノニシテ其内面ニ位ス

ル銳感覺ノ皮膚即チ真皮ヲ蓋護ス

三三六三三四六  
皮膚ノ生理ヲ  
述ヘヨ

三三六皮膚ノ  
用如何

三三七表皮ノ  
用如何

(三三八) 表皮ハ  
其他ニ用アリ

(三三八) 表皮ハ真皮ニ於ケル液ノ蒸發ト有毒物ノ  
吸収ヲ妨ケ以テ病ヲ防ク但シ脂肪ノ多量ナルハ  
ハ之ヲ防クニ最モ良シトス

(三三九) 皮膚ノ  
神經ハ何ノ用  
チナスヤ

(三三九) 皮膚ノ神經ハ抵觸ノ知覺ノ主ル者ナリ炎  
熱ノ候冷氣ニ逢フテ爽快ヲ覺ヘ又有害物ノ近ツ  
クヲ知リテ之ヲ避ケ得ルカ如キモ皆其功ニ依ル  
モノナリ

(三四〇) 老廢物  
多クハ何ニ依  
テ排除セラル  
ルヤ

(三四〇) 体内ノ老廢物ハ皮膚ニ依テ排除セノルハ  
モノ多シ即チ脂肪、蒸氣、炭酸是ナリ  
(三四一) 脂肪ハ血液ヨリ皮脂ヲ分チテ皮表ニ注キ  
皮膚ヲシテ常ニ柔軟滑澤ナラシム此線ハ寒暖乾  
濕ノ變ヲ受クルノ最モ多キ部分ニ於テハ其數最

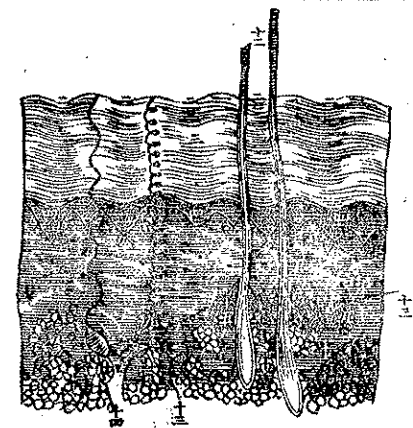
(三四二) 脂肪ノ  
用如何

(三四二) 汗腺ノ  
用如何  
方一寸ノ皮膚  
中幾何ノ汗腺  
アリヤ

モ多キモノナリ  
(三四二) 汗腺ハ血中ヨリ汗ヲ分ツモノニシテ一寸  
平方ノ皮膚中其數二千余アリ故ニ全身中ニハ五  
百萬有余アル

(三四三) 汗ハ常  
ニ之ヲ見得ル  
ヤ

第 六 十 八 圖  
汗腺斷ヘス其  
動作ヲナシテ  
皮膚ヲ潤ス然  
レ其濕潤ハ  
吾人ノ之ヲ見



- (一) 表皮隆起線ノ縱斷
- (二) (一) 同溝
- (三) 表皮
- (四) 表皮着色ノ層
- (五) 真皮
- (六) (一)(六) 乳嘴ニシテ表皮  
ノ隆起線ニ應ス
- (七) 乳嘴間ノ溝
- (八) 同深溝ニシテ乳嘴ニ對  
ニ開ニアリ
- (九) 脂肪ノ滿チタル管
- (十) (十) 脂肪層
- (十一) 毛髮
- (十二) 肝腺及其螺旋管
- (十三) 同
- (十四) 表皮腺ニシテ毛胞ニ口  
ヲ開ク

得ルキト否ラサルキトアリ○能ク乾キテ且ツ冷  
カナル硝子瓶ヲ取リロシ手掌ニテ蓋ヒ二三分時  
ヲ經ルキハ其内面手掌ヨリ發スル蒸氣ニ依テ濕  
潤ス是レ即チ見得サル汗ノ冷ニ逢テ収縮シタル  
モノナリ

(三四四)皮膚ノ諸腺ハ甚々緊要ナルモノニシテ其  
間皮膚ノ排泄  
スル老廢物ノ  
量幾何

(三四四)皮膚ノ諸腺ハ甚々緊要ナルモノニシテ其  
作用ニヨリ一晝夜間ニ排除セラレ、老廢物ノ量  
ハ二十「オン」スヨリ三十「オン」ニ至ルモノナリ  
ハニ余ナリ

(三四五)蒸氣ヲ  
妨レンハ其害  
如何

(三四五)皮膚ノ病ニ罹リ或ハ寒氣ニ冒サレテ蒸氣  
ノ閉塞スルキハ彼ノ老廢物ハ出路ヲ失ヒ血液ト  
共ニ体内ニ循行シ肺臟、胃腑及ヒ其他ノ機関ヲ妨

碍スルモノナリ

(三四六)咳嗽、頭  
痛等ノ原因ヲ  
問フ

(三四六)慢性咳嗽、頭痛、不消化病、痢病等ヲ患フル原  
因多クハ蒸氣閉塞ニアリ又諸機關ノ中其作用ノ  
衰ヘタルモノハ最モ病ニ罹リ易シ故ニ肺臟ノ病  
ニ罹リ或ハ痲瘋質斯ヲ患フルモノ、偶々惡寒ニ  
冒サル、片ハ忽チ患部ニ焮衝ヲ起スモノナリ

第二十六章 皮膚ノ健全法

(三四七)皮膚ノ  
知覺力及脂腺  
汗腺ノ作用ハ  
何ニ依テ變ス  
ルヤ

(三四七)皮膚ノ知覺力及ヒ脂腺、汗腺ノ作用ハ表皮  
ノ状態体温ノ強弱、空氣ノ清潔不潔ト其温度及光  
線ノ強弱ニ依テ變スルモノナリ

(三四八)皮膚ノ  
働キヲ充分ナ  
ラシメンニハ  
何ニ注意スヘ

(三四八)皮膚ノ作用ヲ充分ナラシメンニハ衣服、浴  
湯、光線及ヒ空氣ニ注意センコトヲ要ス

キヤ  
(三四九)衣服ハ  
身体ニ温ヲ與  
フルヤ  
何ノ為メニ衣  
服ヲ用フルヤ

(三五〇)衣服ト  
ナスヘキ品質  
ハ如何ナルモ  
ノヲ撰フヘキ  
ヤ

(三五二)尚ホ撰  
フヘキモノア  
リヤ

(三四九)衣服ハ温ヲ與フルモノニ非ス唯体温ノ逃散スルト冷氣ノ身体ニ觸ル、ヲ防クノミナリ○衣服トナスヘキ品質ヲ撰ヒ且ツ之ヲ着スルニ注意スヘキ條々左ノ如シ  
(三五〇)衣服ハ不導温体ヲ以テ之ヲ造リ体温ヲシテ氣中ニ散セサラシメン、トヲ要ス故ニ其質ノ可成的粗ナルモノヲ撰フヘシ蓋シ組織間ニ空氣ヲ含ム、ト愈々多ケレハ温ヲ導クノ力愈弱キカ故ナリ  
(三五二)衣類若シ濕氣ヲ受レハ導温体トナル故ニ衣類ハ當ニ不導體ノミナラス尚ホ濕氣ヲ吸収セサルモノヲ撰ムヘシ

(三五二)毛織ノ  
性質如何

(三五二)毛織ハ其組織間ニ空氣ヲ含ム、ト多ク且ツ濕氣ヲ受ケサルモノナレハ之レヲ衣服トナスヘキ最良品トス

(三五三)水綿ノ  
性質如何

(三五三)水綿ハ毛織ニ比スレハ空氣ヲ含ム、ト少ナシト雖モ麻布ニ比スレハ更ニ多シ且ツ其質毛織ヨリモ柔カニシテ皮膚ヲ刺衝スル、ト甚タ少ナシ故ニ水綿ハ以テ肌衣ヲ造ルヘシ

(三五四)衣類ニ  
氣孔ノ多キモ  
ノヲ撰ムベキ  
ハ何故ソ

(三五四)氣孔ハ多キ物ヲ以テ衣類ヲ造ルヘシ蓋シ皮膚ハ血中ノ不潔物ヲ排除スルノ外呼吸ノ用ヲナスモノナレハ空氣ノ出入ヲノ自由ナラシメン、カ為メナリ

(三五五)衣服ヲ  
寛裕ニスヘキ

(三五五)衣服ハ寛裕ニシテ衣服ノ間ニ必ス空氣

カ

カ

セ

三五六 腦筋等ノ病ニ罹ルハ、衣類ヲ増スヘキハ何故ソ

三五七 日没後ニ衣類ヲ増スヘキハ何故ソ

三五八 舉動ノ劇シキモノハ、

ヲ満タシムヘシ斯ノ如クスルハ其密着セルモノヨリハ却テ温暖ナルモノナリ故ニ手袋靴等モ少ク大ナルモノヲ撰ムヘシ

三五六 貴要機關ノ病ニ罹ルハ、多クニ衣類ヲ着スヘシ、肺臟心臓等ノ病ニ罹ルハ体温發生ノ量ヲ減少ス故ニ勞瘵胃病頭痛等ヲ患フルモノハ其皮膚ノ蒼白トナリテ手足ノ冷ルモノナリ

三五七 日没後ニハ被服ハ數ヲ増スヘシコレ日没後ハ生氣ノ衰ルヲ以テ体温發生ノ量ヲ減シ加之大氣ハ濕氣ヲ含ミ皮膚ハ蒸氣ヲ為メニ濕潤シ以テ体温ヲシテ速ニ散逸セシムルカ故ナリ

三五八 起動ヲナスモハハ坐業ヲナスモハヨリモ

被服ヲ要スルハ、

三五九 衣服ハ週身一様ナラサルヘカラサル

三六〇 衣服ヲ清潔ニスヘキハ何故ソ

三六一 夜着蒲團ノ類ヲ日々空氣ニ暴スヘキハ何故ソ

速カニシテ体温發生ノ量ヲ増スカ故ナリ

三五九 衣服ハ週身一様ニシテ過不足アラシムヘカラス、彼ノ胸ト腕トヲ露出スルノ風習ハ甚タ害アリトス

三六〇 衣服ヲ清潔ニスヘシ若シ不潔濕潤ノ衣服ヲ着スルハ、為メニ皮膚ノ蒸發ヲ妨ケ終ニ疾病ヲ醸スモノナリ故ニ衣服ハ屢々新衣ト更換スルヲ要ス

三六一 夜着蒲團ノ類ハ日々空氣ニ暴スヘシ若シ之ヲ怠ルハ其内ニ含ミタル水氣ノ為メニ蒸氣閉塞シ有害物ノ全身ニ循ルヲ以テ諸病ノ原因ト



三六二 衣服ノ濕リタル片ハ如何スヘキヤ

三六三 厚キ衣類ヲ薄キモノト着換フルニハ如何ナルキヤ  
ヲ長シトナス

ナルモノナリ  
(三六二) 衣服ハ濕リタル片ハ直ニ之ヲ脱キ去リ乾キタル粗布ヲ以テ皮膚ヲ摩擦シ其赤色ヲ呈シテ抗抵ヲ起スニ至ルヘシ若シ衣服ヲ着換ノルヲ能ハサル片ハ身体ヲ運動シテ体温ヲ發生セシメ以テ衣服及皮膚ヲ乾カスヘシ  
(三六三) 厚キ衣類ヲ薄キモノト着かヘント欲セハ宜シク午前ニ於テスベシ衣服飲食及ヒ其他ノ習慣ヲ卒然變スルハ身体ニ大ナル害アリ然レモ氣力ノ盛ナル片ハ其害必ナク氣力ノ衰ヘタル片ハ其害ノ多キモノトス蓋シ午前ハ氣力ノ盛ナルモノナレハ凡テ此等ノ習慣ヲ變スルハ午前ニ於テ

三六四 沐浴ノ用如何

三六五 浴湯ノ温度ハ幾何ニスヘキヤ

三六六 入浴スヘカラサルハ如何ナル時ニ入浴ニ最モ良キハ如何ナル時ニ

三六七 浴法中最良ノモノハ

スルヲ良シトスルナリ  
(三六四) 沐浴ハ蒸氣ヲ自在ナラシムルニ甚タ緊要ナリ故ニ屢々全身ヲ浴シテ汚物ヲ洗ヒ去ルヘシ  
(三六五) 冷水或ハ低度ノ温湯(夏時ハ七十度冬時ハ八十度ヨリ高カラサルモノ)ニ浴スル片ハ高度ノ温湯ニ浴スルヨリモ更ニ健康上ニ裨益アリ  
(三六六) 心身ヲ勞シテ疲ハタル片或ハ嚙食後ハ直ニ入浴スヘカラス入浴ニ最良ノ時刻ハ朝食後九ツ二時間ヲ經タル時ナリ但シ病者ハ必ズ此時ヲ撰ムヘシト雖モ壯健ノ人ハ朝夕共ニ浴スルヲ得ヘシ  
(三六七) 浴法中海綿浴ヲ以テ最良ノ法トス蓋シ浴

如何ナルモ、

中皮膚ヲ空氣ニ暴ラステ甚タ少ナク且ツ海綿ヲ

去ルヤ粗布ヲ以テ皮膚ヲ摩擦シ以テ寒冷ヲ防ケ

ハナリ但シ全身浴ト雖モ浴後直ニ粗布或ハ刷子

ヲ以テ皮膚ヲ摩擦シ其赤色ヲ帯ヒテ温ヲ生スル

ニ至ラハ寒氣ニ冒カサルノ患ヒナシトス

(三六八)空氣ハ皮膚ノ作用ヲ助ク即チ酸素ヲ皮膚

ニ與ヘ炭酸水蒸氣等皮膚ノ排泄スル諸瓦斯及諸

液ヲ散逸セシムルモノナリ故ニ皮膚ハ常ニ空氣

ニ觸接セシメサルヘカラス是亦衣類ノ寛裕ニシ

其質ノ粗ナランヲ要スル所以ナリ

(三六九)光線ハ皮膚ノ作用ニ於テ欠クヘカニサル

モノナリコレ高地ノ陽室ニ住スルモノヨリモ低

(三六八)皮膚ノ  
運管ニ於テ空  
氣ハ如何ナル  
用アリヤ

(三六九)光線ハ  
皮膚ノ運管ニ  
欠クヘカラサ  
リヤ

(三七〇)居室ハ  
如何ナルモノ  
ヲ撰ムヘキヤ

地ノ陰室ニ住スルモノ、虚弱ナル所以ナリ

(三七〇)日光ノ欠クヘカラサルヲ斯ノ如クナレハ

學校、職場、庖厨、居室ノ如キハ殊ニ注意シテ空氣ノ

通暢ヲ宜クシ且ツ充分日光ヲ受ケシムヘシ

(三七二)皮膚ニ凍瘡ノ生シタル片ハ氷塊或ハ雪片

ヲ附スルカ或ハ冷水ヲ注キテ之レヲ冷ヤスヘシ

火遭或ハ暖室ニ移リテ之レヲ温ムルカ如キハ甚

タ不可ナリトス

(三七三)湯傷或ハ火傷ニ於テ水胞ヲ生セサルカ或

ハ之ヲ生スルモ未タ表皮ノ脱々サル片ハ斷ヘス

冷水ヲ注キテ痛ミノ止ムヲ待ソヘシ已ニ痛ノ止

ニ至ラハ布片ニ豕脂ト蜂蜜ヲ攤シ以テ之レヲ被

(三七二)凍瘡ノ  
生スル片ハ如  
何スヘキヤ

(三七三)湯傷或  
ハ火傷ニ於テ  
水胞ノ生セサ  
ル片ハ如何ス  
ヘキヤ

三七三又表皮ノ脱セシキハ石灰水ニ甘油ヲ加ヘテコレヲ塗リ

布片ヲ以テ被フヘシ但シ傷ノ癒ルニ至ルマテ布片ヲ脱スルヲ勿レ

第二十七章 神経系論

三七四前章ニ於テ已ニ筋骨ノ構造及其用食物ノ

乳糜トナリテ血ニ混シ全身ヲ循リ以テ各部ヲ榮養スルヲ論セリ

三七五其他何ヲ論セシヤ

(二七五)又榮養ノ終ルヤ其老廢物ハ水脉ニ依テ血管ニ輸ラレ呼吸機ト分泌機ノ作用ニ依テ排除セラレ、トヲ記セリ右等ノ作用ハ互ニ相關シテ苟

三七六(三八) 神経系ヲ解剖セヨ

神経系ノ解剖

モ其順序ヲ亂スヘカラサルモノナレハ必ス之ヲ主宰スルモノ無カルヘカラス即チ其主宰ヲナスモノハ神経系ナリ

(三七六) 神経系ハ腦髓、腦、神經、脊髓、脊髄、神經、及ヒ交感神經ヨリ成ル

三七七(三七八) 腦髓ハ如何ナルモノ

(三七七) 腦髓ハ頭蓋骨内ニ位セル柔軟髓質ノモノニシテ其上前ノ部ヲ大腦ト云ヒ下方ニ在テ頭蓋骨ノ後部ニ位セルモノヲ小腦ト云フ

三七八(三七八) 大腦ハ如何

(三七八) 大腦ハ白色ノ物質ニシテ其縁邊ハ灰白色ノモノヨリナル

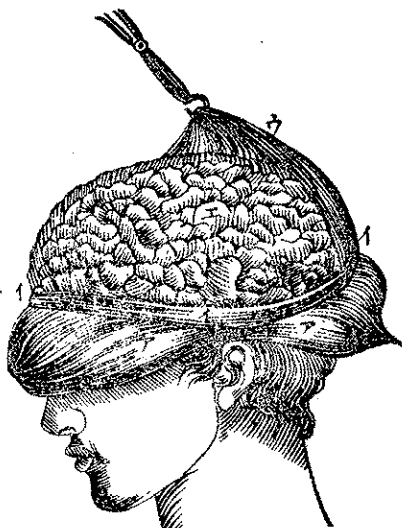
三七九(三七九) 小腦ハ如何

(三七九) 小腦モ亦タ白質、灰白質ノ二物ヨリナルト

(三八〇) 腦ノ膜  
ハ如何ナルモ  
ノソ

雖モ灰白質ヲ居多ナリトス之ヲ縱截スルハ白  
質樹枝状ノ配列ヲ見ル之レヲ腦ノ活樹ト名ケ  
(三八〇) 腦ハ三枚ノ膜ヲ被ムルモノニシテ其外膜  
ハ堅韌ニシテ厚ク中膜ハ薄クシテ蜘蛛絲ノ如ク

(三八二) 頭蓋骨  
及ヒ腦膜ヲ除  
ケハ腦髓ノ状  
如何  
其名ヲ問フ



(ア) 顛轉シタル  
頭皮  
(イ) 頭蓋骨ノ  
切口  
(ウ) 腦ノ外膜  
(エ) 腦髓左側ノ迂  
回ヲ示ス

第六十九圖

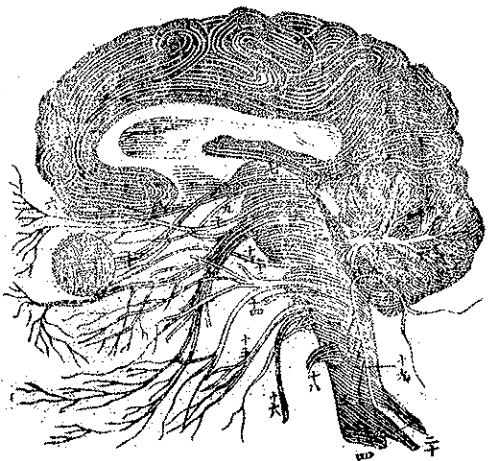
内膜ハ網状ヲ  
ナセル微細ノ  
血管ナリ  
(三八二) 頭蓋骨  
ト腦膜ノ上部  
ヲ除去スルハ  
ハ腦髓褶襞ノ  
波浪状ヲ呈ス

(三八三) 脊髓ノ  
質如何  
延髓トハ何モ  
ノソ

ルヲ見ル之ヲ腦ハ迂回ト名ツク

第七十圖

腦脊髓及腦神經ノ位置ヲ示ス



(一) 大脳  
(二) 小脳及ヒ其活樹  
(三) 延髓  
(四) 脊髓  
(五) 腦神經ノ第一對即チ嗅  
神經  
(六) 第二對即チ視神經  
(七) 第三對即チ三叉神經  
(八) 第四對即チ舌咽頭及ヒ頸部ニ分派ス  
ル神經  
(九) 第五對即チ舌神經  
(十) 第六對即チ聽神經

(三八三) 神經ハ  
如何ナルモノ  
ソ

ノ膜ヲ被ル  
其長ハ腦  
髓ヨリ起リ  
テ脊梁ノ全  
長ニ達ス其  
頭蓋骨内ニ  
在ルモノヲ  
延髓ト名ツ  
(三八三) 神經

(三八四) 腦神經  
ヲ問フ

(三八五) 脊髓神  
經ヲ問フ

(三八六) 神經ノ  
構造ヲ問フ

(三八七) 交感神  
經ハ如何ナル  
モノゾ

ハ白色ノ細線ニシテ腦髓及ヒ脊髓ヨリ起リテ身  
體ノ各部ニ分派ス

(三八四) 腦神經ハ腦髓ノ底ヨリ起リ其數十二對  
リテ面部ニ分派ス

(三八五) 脊髓神經ハ脊髓ヨリ起リテ三十對アリ  
其起ル處ハ前根即チ運動神經、後根即チ知覺神經  
ノ二根ニ分ル

(三八六) 神經ハ至微至細ノモノト雖モ又ス二條ヨ  
リナリ其一ハ知覺ヲ主リ二ハ運動ヲ主ルモノナ  
リ

(三八七) 交感神經ハ脊骨ノ兩側ニ於ケル神經管ノ  
鏈屬ニ依テ成リ腦神經及ヒ脊髓神經ニ通シ且ツ

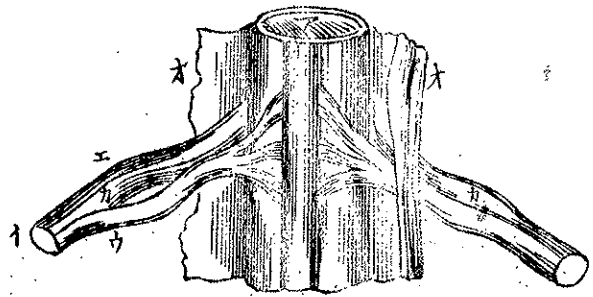
第七十一圖ハ  
何ヲ示スヤ

(三八八) 三九四  
腦ノ生理ヲ記  
セフ

(三八八) 腦髓ノ  
用如何

(三八九) 知覺ヲ  
司ルモノハ何  
レニアリヤ  
知覺ノ媒介ヲ

第七十一圖



(a) 脊髓  
(b) 其膜  
(c) 脊髓神經二根  
合シテ一條トス  
(d) 前根即チ運動  
神經  
(e) 後根即チ知覺  
神經  
(f) 神經節

諸内臓ニ分派スルモ  
ノナリ

神経系ノ生理

(三八八) 腦髓ハ精神ノ

府ナリ大腦ハ思慮記

憶好惡等ヲ主リ小腦

ハ情慾ヲ主ル人體ニ

在テハ大腦ノ後部殆

ト小腦ノ全面ヲ蓋シ

モノナリ

(三八九) 腦髓ハ知覺ノ司ナレハ神經ノ媒介ニ依テ  
全身諸部ノ知覺ヲ集ム故ニ腦髓ニ疾病或ハ其他

ナスハ何物ソ

ノ損害ヲ受ケザラシメンコトヲ緊要トス

(三九〇) 知覺トハ何ソ

(三九〇) 知覺ハ原ト神經ノ末端ニ痛癢冷熱軟硬滑等ノ感ヲ受ケ之ヲ腦髓ニ通シ初メテ之レヲ曉ルナリ

(三九二) 痛癢冷熱等ヲ知覺スルハ腦髓ノ如何ナル部ソ

(三九二) 腦ノ白質及灰白質ノ一カヲ脱去スルモ又ス命ヲ亡フモノニ非ス故ニ痛癢冷熱等ノ感ヲ受クルハ腦髓ノ何レノ部ナルヤ未ダ之ヲ詳カニセス

(三九三) 腦髓自巳ノ知覺ノ鋭鈍如何又延髓ノ知覺ノ如何

(三九三) 腦ハ知覺ヲ司ルト雖モ自体ニ於テハ知覺ノ甚タ鈍キモノナリ故ニ腦ヲ截斷スルモ痛ミヲ覺フルコトナク且ツ全身ノ知覺ニ於テ更ニ異變ナシ然レモ延髓ニ至テハ其覺機甚タ鋭クシテ微ニ

(三九三) 筋肉ノ運動ハ如何ニ生スルヤ

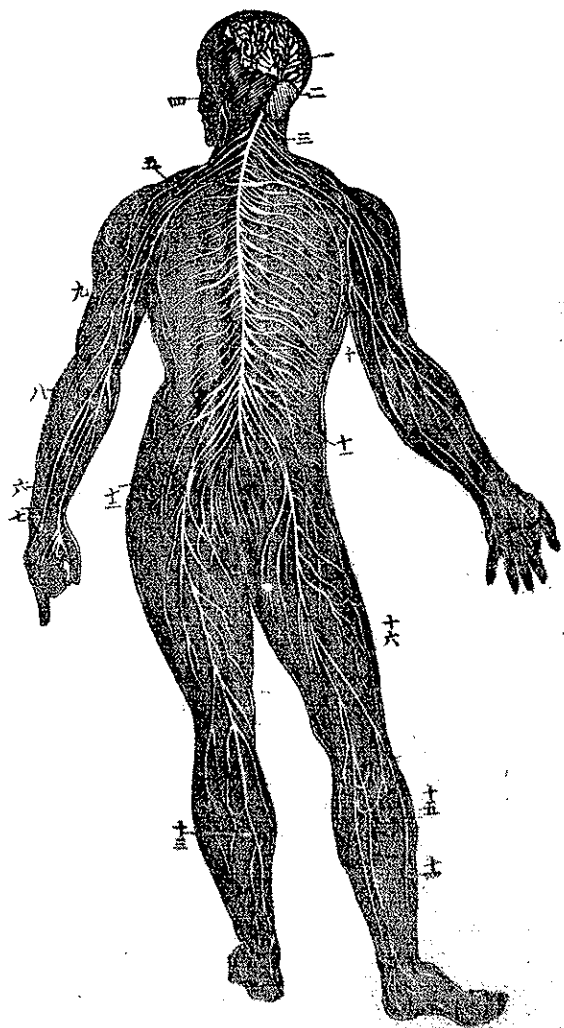
之ヲ刺衝スルモ忽チ痙攣ヲ起シ若シ疵傷ノ大ナルバハ直ニ呼吸ヲ止ムルモノナリ  
(三九三) 腦ハ意識ノ司ナリ故ニ筋肉ノ運動ハ精神ノ意識ニ從ヒ腦ノ命令ニ依テ生スルモノナリ筋肉ト腦髓ト此媒介ヲナスモノハ即チ運動神經ト

(三九四) 交感神經ノ用如何

(三九四) 交感神經ハ知覺及運動ヲ主ルモノニ非スシテ諸要機ノ活動ヲナサシメ且ツ之ヲシテ互ニ感セシムルモノナリ例ヘハ若シ誤テ腦髓ヲ擊ソキハ忽チ惡心嘔吐ヲ催シ又胃ヲ刺戟スヘキ食物ヲ喫スレハ頭痛ヲ起ス等皆此神經ノ作用ニ依テ腦胃互ニ相感スルモノナリ

第七十二圖

腦髓及脊髓ノ背面ヲ示ス



- (一) 大脳
- (二) 小脳
- (三) 脊髄
- (四) 顔面ノ神経
- (五) 上臂叢即チ神経ノ集合
- (六) 上肢ノ神経
- (七) 肋骨下ヲ過クル神経
- (八) 腰叢
- (九) 下肢ノ神経
- (十) 腋骨叢

三九五―四〇八  
神経系ノ健全

第二十九章 神経系ノ健全法

法如何  
三九五 諸官能ノ本原ハ如何

三九六 腦ノ健康ニシテ充分ナルカチ發セシニハ何チ最要トナスヤ

三九七 腦ハ清血ノ充分ナル供給ヲ要スルヤ

三九五 諸官能ノ本原ハ腦髓ト脊髄ニアリ而シテ腦ハ親シク精神ト結合スルモノナレハ之レヲシテ損害ヲ受ケナラシメ又諸機關ヲシテ腦ノ命ニ從ハシメンコトヲ要ス

三九六 腦髓ハ健康ニシテ其作用ハ充分ナラシニハ第一生來ハ完備チ要ス生來腦髓ノ完備シテ幼少ノ際不當ニ之ヲ用フルコトナクシテハ其病ニ罹ルコト甚タ稀ナルモノナリ

三九七 腦ハ清血ハ充分ナル供給ヲ要スルモノニシテ心臟ヨリ出ル血液ノ十分一ハ腦髓ニ循環ルモノトス故ニ若シ動脈血ヲ漏ラシカ或ハ不潔ノ空氣ヲ呼吸スルルルハ腦髓ノ働作ヲ亂シ甚タシキハ



知覺ヲ失フニ至ルモノナリ○空氣ノ流通ノ宜カラサル室内ニ多人數群衆スルハ頭痛眩暈等ヲ發スルハ汚血ノ腦髓ニ循ルカ故ナリ○生徒ノ學業ヲ試ル等ノ片ニ方リ生徒ノ精神ヲシテ活潑ナラシメント欲セハ能ク注意シテ空氣ノ通暢ヲ宜クスヘシ又講義堂ニ於テ空氣ノ通暢ヲ宜クスレハ聽衆ノ倦怠及睡眠ヲ防クモノナリ

(三九九)腦髓ハ且ツ用ヒ且ツ休ムルヲ筋肉ヲ用フルカ如クスヘシ斯ノ如クスル片ハ其大サト力ヲ增加ス然レモ若シ之レヲ用ヒサル片ハ大ニ其力ヲ減シ為メニ全身諸機能ノ衰フルモノナリ

(三九九)腦ノ發生如何ト体ノ健不健ニ依テ勞腦ノ

三九九 腦ヲ勞スル時間ハ何

三九九 腦髓ハ常ニ之ヲ用フヘシヤ  
若シ之レヲ用ヒサルハ如何

ニ依テ伸縮ノヘキヤ

時間ヲ斟酌スヘシ例ハ腦髓ノ大ニシテ穎才ノ少年ニハ甚タシク勉強セシムヘカラス之ニ反シテ鈍才ニシテ身體ノ健康ナルモノニハ頗リニ鞭策シテ勉強セシムヘシ

(四〇〇)精神ヲ勞スルハ劇ニ過クルハ或ハ久シキニ過クレハ大ニ害アリ但シ幼年ノ際ハ腦髓未熟ナルヲ以テ其害最モ甚タシトス○學業試験ノ際良生徒ノ甚タ平常ト異ナルヨト間々コレアリ是レ即チ其期ニ先チ非常ニ精神ヲ勞シタルカ為メナリ故ニ斯ル生徒ニハ試験前數日ノ間ハ勉強ヲ廢シテ樂讀或ハ遊戲ニ依テ精神ヲ慰マシムヘシ

(四〇一)食後直ニ腦髓ヲ勞スルハ勿レ腦ト胃トハ互

四〇〇 精神ヲ勞スルハ劇ニ過クルハ或ハ久シキニ過クレハ大ニ害アリ但シ幼年ノ際ハ腦髓未熟ナルヲ以テ其害最モ甚タシトス○學業試験ノ際

四〇一 食後直ニ腦髓ヲ勞スルハ勿レ腦ト胃トハ互

八害アリヤ

ニ相感スルモノナレハ假令強壯ノ人ト雖モ食後不幸ノ報ヲ聽キ或ハ苦慮驚愕等ニ依テ腦ヲ惱マズ所ハ忽チ消化ノ機能ヲ害シ惡心嘔吐ヲ催スモノナリ

(四〇三) 腦ヲ勞シ得ヘキハ如何ナル時ソ

(四〇三) 甚クシク腦髓ヲ煩ハスヘキ事業ハ之ヲ午前ニナスヘシ凡テ難文ヲ解シ深慮ヲ回ラス等ハ之ヲ午前ニ於テシ午後ハ會話樂讀奏樂等ヲナシテ精神ヲ慰ムヘシ斯ノ如クスレハ夜中安眠スルヲ得テ精神ヲ爽快ナラシムヘシ○夜中燈下ニ書ヲ讀クテ知識ヲ研カントスルモノアリト雖モ更ニ其益アラサルモノナリ

(四〇三) 睡眠時間ノ長キヲ要ス

(四〇三) 平常心ヲ勞スルモノハ及以年ハ輩ハ懶惰ノ

スルハ如何ナル人ソ

モハ及壯年ノ輩ヨリハ睡眠時間ノ長キヲ要ス何トナレハ睡眠ハ諸機關ヲ休憩セシムルモノニシテ諸機關ヲ勞スルト愈々大ナレハ其休憩時間モ亦々愈々長カラサルヲ得サレハナリ但シ少年ノ諸機關ハ通常働作ノ外身体ヲ成長セシメンカ為メニ甚ク務ムルモノナリ

(四〇四) 阿ニ依テ腦ノ状態ヲ變ヌルヤ

(四〇四) 思慮ノ變化ニ依テ腦ノ状態ヲ變ヌ故ニ若シ只一事ニ就テ非常ニ精神ヲ勞スル片ハ顔面赤色トナリ頭痛眩暈ヲ起スヘシト雖モ此時思慮ヲ轉シテ少シク樂シキ事ヲ考フレハ即チ之ヲ治シ得ルナリ

(四〇五) 一事ニ數事ヲナサン

(四〇五) 唯一事ニハミ心ヲ用フレハ腦髓暫時ハ其

トスルモ腦ノ  
力不足セザル  
ヤ

(四〇六)勞腦ノ  
時刻ニ正規ヲ  
定ムヘキヤ

(四〇七)思考力  
ノ練磨スヘキ  
ハ何故ソ

(四〇八)腦ヲ  
マモル身體ニ

カヲ充分ニ見スモ、ハナリ若シ同時ニ數事ヲナサ  
ントスレハ腦髓ノ力不足シテ全ク事ヲ成シ難シ  
(四〇六)勞腦ノ時刻ニ正規ヲ定ムヘシ食時ニ正規  
ヲ定ムレハ日々其時刻ニ至リテ必ス食慾ヲ發ス  
ルカ如ク勞腦ノ時刻ニモ正規ヲ定ムルモハ終ニ  
習慣トナリ其時刻至レハ必ス思考力ノ發スルモ  
ノナリ

(四〇七)思考力ヲ強ムント欲セハ思慮ヲ屢々反復  
練磨スヘシ思慮ノ練磨ハ筋肉ノ練磨ノ如ク甚々  
緊要ナルモノナリ故ニ幼年ノ生徒ニハ勉メテ此  
法ヲ行ハシムヘシ

(四〇八)腦ヲ非常ニ惱マシテ之ヲ害スル片ハ全体

如何ナル害ヲ  
生スルヤ  
之レヲ治スル  
ハ如何スヘキ  
ヤ

(四〇九)五官ト  
ハ何ソ

(四一〇)觸官ト  
ハ何ソ

ノ知覺ヲ鈍クシ四肢ハ蒼白色ヲ呈シテ厥冷シ跡  
搏ハ薄弱トナリ呼吸ハ甚々不充分ノモノトナル  
斯ノ如キ片ニハ勉メテ新鮮ノ空氣ヲ呼吸シ且ツ  
四肢ヲ摩擦シテ血液ノ循環ヲ宜シクスヘシ

第三十章 特感器論

觸官

(四〇九)感覺ハ神經ノ媒介ニ依テ觸味聽視等ノ諸  
感ヲ腦髓ノ知覺スルモノニシテ人類ニ於テハ五  
種ノ感覺ヲ具ヘリ即チ觸覺味覺聽覺視覺及聽覺  
ニノ之ヲ五官ト云フ  
(四一〇)觸官ハ吾人ヲシテ物ノ粗密冷熱銳鈍等ヲ  
辨知セシムルモノニシテ即チ皮膚ノ神經ニアリ

四一〇 指及唇ノ知覺ノ甚を銳敏ナルハ何故ソ

(四一〇) 抵觸ヲ知覺スル神經ハ脊髓ヨリ起リ指及唇ノ如キ敏捷ノ部ニ於テハ甚々大ニ其數最モ多シ但シ此知覺ノ銳鈍ハ各人皆異ナルノミナラス尚ホ年齢ニ依テ變スルモノトス故ニ凡テ小兒ノ知覺ハ大人ヨリモ銳敏ナルモノナリ

四一二 觸覺ハ何ニ依テ其銳鈍ヲ異ニスルヤ

(四一二) 此知覺ハ腦及神經ノ狀態皮膚ノ血量及ヒ其質表皮ノ厚薄平常ノ練磨等ニ依ニ大ニ其銳鈍ヲ異ニス○盲人ノ眼ヲ以テ物ヲ見ル能ハスト雖モ抵觸ニ依テ之ヲ辨知シ或ハ書籍盲人ノ為ニ備ヘタルモノヲ速ニ讀ミ得ルモノ全ク平常ノ練磨ニ依ルナリ

味官

四一三 味官トハ何ソ

(四一三) 味官ハ吾入ヲシテ物ノ味ヲ辨知セシムル

其主ナルモノハ何ソ

モノニシテ舌ヲ以テ主トナシ兩頰及咽喉ノ上部モ亦此知覺ヲ具ヘリ

四一四 味神經ノ分布セル處ハ如何ナルモノソ

(四一四) 舌ノ表面ニハ無數ノ突起即チ乳嘴アリテ其狀恰モ天鵞絨ノ如シ是レ即チ味神經ノ分布セル處ナリ○筆ヲ以テ強酸液(例ハ醋酸)ヲ舌ニ近クレハ乳嘴延展シテ異形ヲ見ハスモノナリ

四一五 味ヲハキ物質ハ如何ナルモノヲ要スルヤ

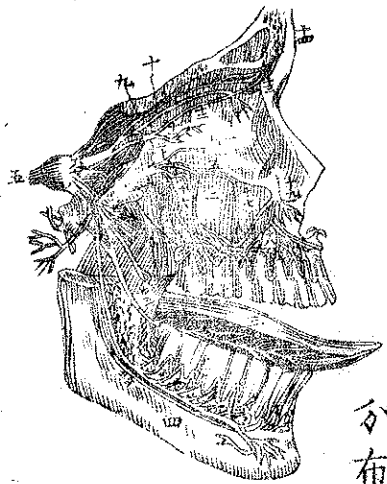
(四一五) 味官ハ流動物カ或ハ唾液ヲ以テ微ニ溶解シタルモノニ非レハ其味ヲ辨スル能ハス故ニ流體ノ口内ニ入ルキハ乳嘴自ラ延展直立シテ之ヲ味ヒ以テ腦髓ニ報スト雖モ乾固物ノ口内ニ入ルキハ先ツ唾液ヲ以テ之ヲ溶カシ然ル後之ヲ味ヲモノナリ

(四一六) 味官ノ用如何

(四一六) 味官ノ用ハ人獸共ニ食物ヲ撰ミ且ツ有害物ノ胃ニ入ルヲ防クニ在リ但シ此官能ハ風俗ノ改良スルニ從テ變スルモノナリ

第七十三圖

第五對神經ノ分布



(一) 眼窠  
(二) 上顎  
(三) 舌  
(四) 下顎  
(五) 第五對神經  
(六) 其第一枝ニシテ  
眼ニ至ル  
(七) 第二枝ニシテ  
舌及下顎ノ齒牙ニ至ル  
(八) 第三枝ニシテ  
(九) 舌ノ支別  
(十) 第三枝ノ支別ニシテ  
(十一) 下顎ノ齒牙ニ至ル  
(十二) 第三枝ノ支別ニシテ

(四一八) 習慣ニ依テ味官ノ赴テ變スルヤ

(七) 第二枝ニシテ上顎ノ齒牙ニ至ル  
(八) 第三枝ニシテ舌及下顎ノ齒牙ニ至ル  
(九) 第四枝ニシテ舌ノ支別  
(十) 第五枝ニシテ舌ノ支別  
(十一) 第六枝ニシテ舌ノ支別  
(十二) 第七枝ニシテ舌ノ支別  
(十三) 第八枝ニシテ舌ノ支別  
(十四) 第九枝ニシテ舌ノ支別  
(十五) 第十枝ニシテ舌ノ支別  
(十六) 第十一枝ニシテ舌ノ支別  
(十七) 第十二枝ニシテ舌ノ支別  
(十八) 第十三枝ニシテ舌ノ支別  
(十九) 第十四枝ニシテ舌ノ支別  
(二十) 第十五枝ニシテ舌ノ支別

(四一七) 亞米利加ノ土人ハ食物ノ好惡皆一樣ナリト雖モ開化國ノ人ニ在テハ各人皆ナユレヲ異ニス  
(四一八) 味官ハ習慣ニ依テ其赴ヲ

(四一九) 練磨ニ依テ味官ヲ鋭敏ナラシムヘキヤ  
例ヲ舉ケヨ

異ニス故ニ元ト甚々好マサル物ト雖モ耐忍之ヲ用フル片ハ終ニ習慣トナリテ甚々嗜好ノ物トナルニ至ル假令ハ喫煙ニ於ケルカ如シ  
(四一九) 味官ハ熟練ニ依テ甚々敏捷ナラシムルヲ得例ヘハ酒茶ノ鑑定者ニ於ケルカ如ク品物良否ノ判斷ヲ以テ業トスルモノハ常人ノ辨シ能ハサル味ト雖モ能ク之レヲ辨別スルモノナリ○平常煙草ヲ喫シ或ハ大酒ヲ嗜ム等ノ惡習ニ依テ味官ヲ害スルモノ多シ斯ノ如キモノハ終ニ味神經ノ知覺ヲ鈍クシ天然ノ食味ヲ辨スル能ハサルニ至ルモノナリ

嗅官

(四二〇) 嗅官トハ何ソ

(四二二) 鼻孔ノ内面ヲ述ヘヨ

(四二三) 微細ノ神經ヲシテ激臭ノ刺戟ヲ受ケサラシムルハ何モノソ

(四二三) 香分子ハ如何シテ鼻孔ニ入り

(四二〇) 嗅官ハ物ノ香臭ヲ辨スルモノニシテ鼻孔ノ内ニ位ス

(四二二) 鼻孔ノ内面ニハ一種ノ粘膜アリテ之ヲ被フ此粘膜ハ外ハ皮膚ニ接シ内ハ鼻孔ニ通スル諸孔ノ粘膜ニ連ルモノニシテ嗅神經ノ分布セル處ナリ

(四二三) 粘膜ニ散布セル微細ノ神經ハ空氣ニ直接シ且激臭ノ刺戟ヲ受クルカ故粘膜ニ於テ一種ノ粘液ヲ分泌シテ常ニ此膜ヲ潤シ以テ神經ヲ保護ス

(四二三) 物ヲ鼻ニ送クレハ其香分子ハ空氣ト共ニ鼻孔ニ入り粘膜上ニ散布セル微細ノ神經ニ觸レ

忽チ腦ニ感スルナリ

(四二四) 嗅官ノ用如何

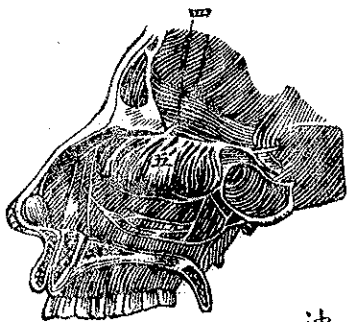
(四二四) 嗅官ハ味官ト親シク相接ン人獸ノ食物ヲ撰擇スルヲ助ク又美香ヲ嗅入シ以テ吾人ニ快愉ヲ與フ

(四二五) 嗅官ハ習練ニ依テ鋭敏ナラシムルヲ得ルヤ

(四二五) 此官ハ味官及觸官ノ如ク習練ニ依テ甚タ鋭敏ナラシムルヲ

第七十四圖ハ何ヲ示スヤ

第七十四圖



鼻孔ノ側面及ヒ第一對神經ノ分布

(四) 嗅神經  
(五) 其細支別ニノ粘膜上ニ散布ス  
我ヲ區別シ且ツ同種中各人ノ臭氣ヲ嗅キ分クルカ如シ

(四二六)犬ノ嗅  
覺ノ鋭敏ナル  
ヲ陳ヘヨ

(四二六)犬ハ嗅覺ノ甚タ鋭キモノニシテ或ハ雜沓  
セル市街ニ於テ足跡ヲ嗅キテ能ク其主人ニ隨ヒ  
或ハ兔ノ走リシ路上ヲ嗅キ之ヲ追テ數里ノ遠キ  
ニ至ルモノナリ

(四二七)嗅覺ノ  
鋭敏ナランニ  
ハ何ヲ要スル  
ヤ  
此知覺ヲ鈍ク  
スルモノハ何  
ソ  
嗅煙草ノ害ヲ  
問フ

(四二七)嗅覺ノ敏捷ナランニハ腦髓并ニ嗅神經ノ  
健康ニシテ鼻孔ノ粘膜ハ薄ク且ツ濡潤セサルヲ  
得ス若シ神經ノ知覺ヲ鈍クシ又ハ粘膜其厚サヲ  
増スカ或ハ其濕潤ヲ失フハ忽チ此知覺ヲ損フ  
モノナリ○嗅キ煙草ヲ用フル片ハ啞ニ神經ノ知  
覺ヲ損フノミナラス尚ホ粘膜ノ厚サヲ増シ為メ  
ニ空氣ノ通路ヲ妨ケ口ヲ開クニ非レハ呼吸スル  
ヲ得サルニ至ルモノナリ

(四二八)視覺ヲ  
主ルモノハ何  
ソ

### 視官

(四二八)視官ハ五官ノ中吾人ニ最モ幸福ヲ與フル  
モノナリ即チ吾人ノ能ク諸物ノ形狀ヲ察シ色彩  
ヲ辨シ大小ヲ分チ遠近ヲ視得ル等皆テ視官ノ功  
ニアリ此知覺ヲ主ルモノハ即チ眼ナリ

### 視官ノ解剖

(四二九)眼ハ如  
何ナルモノソ

(四二九)眼ハ一雙ノ圓球ニシテ頭蓋骨ノ前面ニ於  
ケル眼窠ノ内ニ位ス其周邊ハ三種ノ膜ヨリ成リ  
其内ニハ液類ノ充滿スルモノナリ

(四三〇)眼球諸  
膜ノ名ヲ舉テ

(四三〇)眼球ノ皮膜ハ三層アリ其第一層ヲ硬膜角  
膜トシ第二層ヲ脈絡膜虹彩毛様突起トシ第三層  
ヲ網膜トス

(四三二) 液類モ亦三種アリ第一ヲ水様液トシ第二

ヲ水晶液トシ第三ヲ硝子液トス

(四三三) 硬膜ハ如何ナルモノ

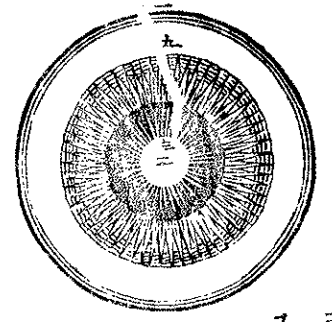
ノ白膜ト名ク其質ノ堅硬ナルニ依テ角膜ト俱ニ

(四三三) 角膜ハ何レニノリヤ

於ケル透明無色ノ膜

第七十五圖

眼球ノ内部ヨリ其前面ヲ見ル



- (一) 二膜ノ截リ口
- (二) 瞳孔
- (三) 虹彩
- (四) 毛様突起
- (五) 虹彩ノ縁邊

ニシテ硬膜ヨリハ較々凸隆ス其硬膜ニ聯接スルノ状ハ恰モ袖珍時計ノ盤上ニ硝子ヲ蓋フカコトシ

(四三四) 脈絡膜ハ血絡

(四三四) 脈絡膜ハ如何ナルモ

ノ錯線シタルモノヨリ成リ眼球ヲ養フモノナリ但シ此膜ノ裡面ニ一種ノ黑質アリテ剰余ノ光線ヲ吸込ス

(四三五) 虹彩ハ何レニアリヤ

(四三五) 虹彩ハ角膜ノ後ロニアリテ全身中最モ精細ナル肉質ヨリナル眼ノ青色、灰色或ハ黒色ヲ帯ルハ即チ此虹彩ノ色ナリ

(四三六) 瞳孔ハ何レニアリヤ

(四三六) 虹彩ノ中心ニ一個ノ孔アリ之ヲ瞳孔ト名ク此孔ハ眼ニ射入スル光線ノ強弱ニ從テ或ハ潤大シ或ハ縮小ス

(四三七) 毛様突起ハ如何ナルモノ

(四三七) 瞳孔ノ近圍ヨリ虹彩ノ外圍ニ至ル細線アリ其色虹彩ヨリハ較々薄ク其數凡ソ六十アリ之ヲ毛様突起ト名ク

第七十五圖

四三三



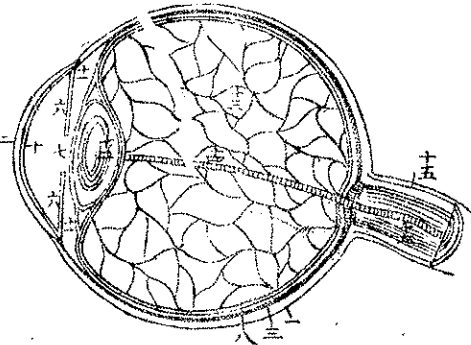
(四三六) 三膜中  
最内ニ位ス  
ルモノハ如何

(四三六) 網膜ハ眼底ニ於ケル視神經ノ延展網狀ヲ  
ナセルモノニシテ三層膜ノ最奥ニ位シ物像ノ此  
膜上ニ映スル片ハ視神經ニ依テ之ヲ腦ニ報スル  
モノナリ

(四三九) 水様液  
ハ何レニアリ

第七十六圖

眼球ノ縱截



- (一) 硬膜
- (二) 角膜
- (三) 脈絡膜
- (四) 虹彩
- (五) 瞳孔
- (六) 網膜
- (七) 水様液
- (八) 水晶液
- (九) 視神經
- (十) 硝子液

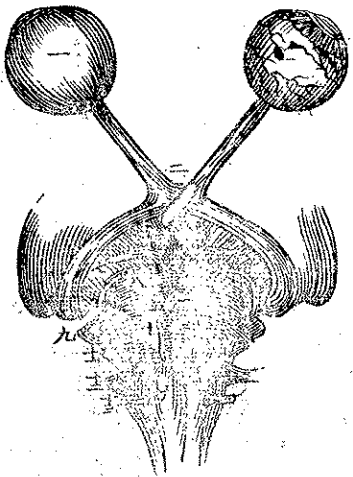
(四三九) 水様液ハ稀薄  
澄明ノ水液ニシテ虹  
彩ノ前後角膜ト水晶  
液ノ間ニ充盈ス  
(四四〇) 水晶液ハ水様  
液ト瞳孔ノ後ニ位  
ス其形複凸鏡ノ如ク  
ニシテ前後其度ヲ異

(四四〇) 水晶液  
ハ何レニアリ  
其構造如何

ニス試ミニ之ヲ煮ル片ハ恰モ葱根ノ如ク層々分  
別スルヲ得ヘシ○魚ノ水晶液ハ其形球ノ如シ之  
ヲ煮レ片ハ人眼ノ水晶液ノ如ク層々分別スルヲ  
得ルナリ○水晶液カ或ハ其外膜ノ變質スル片ハ  
為メニ光線ヲ遮リテ網膜ニ達セシメス故ニ内翳

第七十七圖

第二對神經ヲ示ス



- (一) 眼球ニシテ右側ノモ  
ノハ硬膜ヲ剥キテ網膜  
ヲ見ハス
- (二) 視神經交叉
- (三) 腦髓
- (四) 脊髄ノ起端即延髓
- (五) 視神經
- (六) 第三對(三) 第四對  
第七對(六) 第八對(九)  
第九對

眼ト名クル  
眼病ヲ患フ  
ルモノナリ  
(四四一) 硝子  
液ハ眼球ノ  
後部ニテリ  
テ眼球内部

(四四一) 硝子液  
ハ何レニアリ

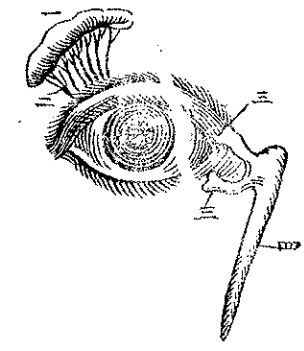
(四四三)視神經ハ如何ナルモ

(四四三)眉毛及ヒ眼瞼ノ用如何

(四四四)睫毛ノ用如何

ノ三分ノ二有テ余ヲ領ス  
 (四四二)視神經ハ腦髓ヨリ起リテ眼球ニ入り脈絡膜ノ内面ニ延展ス此部ニ於テ初メテ物影ノ映スルモノナリ  
 (四四三)眉毛及ヒ眼瞼ハ光線ノ過烈ナルヲ遮リ且ツ塵埃及汗ノ眼ニ入ルヲ防クモノナリ

第七十八圖



(一) 淚腺  
 (二) 淚管  
 (三) 內眦ニ於ケル管  
 (四) 鼻孔ニ達ス管

(四四四)睫毛ハ眼瞼ニ附着シ眼ヲ閉ツレハ上下互ニ交錯シテ異物ノ眼ニ入ルヲ防キ且ツ眼ノ美觀ヲナスモノナリ

(四四五)眼瞼ハ右ノ他ニ用アリヤ

(四四六)淚液ノ生スルハ何所

淚液ノ用如何

(四四七)淚液小管ニ入りテ何所ニ至ルヤ

(四四八)眼球ヲ眼窩内ニ於テ

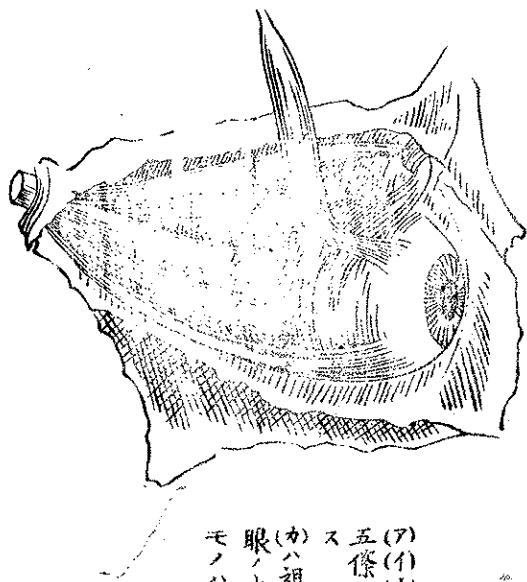
(四四五)眼瞼ハ壹ニ過烈ノ光線塵埃等ヲ防クノミナラス尚ホ一種ノ腺ヲ具ヘ水状ノ液ヲ分泌シテ眼ヲ潤ス  
 (四四六)此腺ノ他眼ノ上部ニ淚腺ト名クル腺アリテ淚液ヲ分泌シ數條ノ細管ヲ以テ之ヲ眼球ニ注ク此液ノ眼ニ達スルヤ瞬動ノ作用ニ依テ塵埃ト共ニ内眦ニ於ケル二個ノ小管ニ流レ入ルナリ  
 (四四七)淚液ノ眼中ニ溜溜スル片ハ此小管直ニ之ヲ鼻孔ニ輸ル然レモ若シ眼ヲ刺戟スルカ或ハ漆情ニ感スル片ハ淚液ノ分泌甚タ盛シニシテ小管ニ溢レテ頰上ニ流ル、モノナリ  
 (四四八)眼窩内ニ眼球ヲ容ル、カ故脂肪ノ厚層

自在ニ運動セ  
シノ且摩擦ヲ  
防クモノハ何  
ソ  
四四九)眼球ヲ  
運動セシムル  
筋六條アリ  
斜視眼ノ因  
起ル理如何

ヲ以テ裡面ヲ被ヒ眼球ノ運動ヲ自在ニシ且ソ摩  
擦ノ患ナカラシム

(四四九)眼球ヲ運動セシムルニ六條ノ筋アリ其

第七十九圖 眼及其諸筋ヲ示ス



(a) (b) (c) (d) (e)  
五條ノ筋ヲ示  
ス  
(カ) 視神經  
眼ノ上下ニアル  
モノハ骨ナリ

端ハ眼窠ノ裡面  
ニ附着シ他ノ一  
端ハ眼球ニ附着  
ス○若シ外直筋  
ノ短縮スルハ  
眼球外方ニ向ヒ  
テ外向斜視眼ト  
ナリ内直筋ノ短  
縮スルキハ眼球

内方ニ向ヒテ内向斜視眼トナルモノナリ

第三十二章 視官ノ生理

(四五〇) 眼球各部ノ用ヲ會得セント欲セハ先ツ預

メ光線放射ノ法則ヲ知ラサルヘカラス

(四五二) 視學ノ法則ニ依ルニ光線ハ粗密相均キ透明

体ヲ透過スルニハ必ス直行ス然レモ粗密均カフ

サル物体ヲ斜ニ透過スルキハ必ス其行路ヲ變ス

之レヲ名ケテ光線ノ屈折ト云フ

(四五三) 又曰ク光線ハ發光体ヲ遠カルニ從テ益々

闊散スト吾人コレニ一則ヲ加ヘ光線ノ眼球内ニ

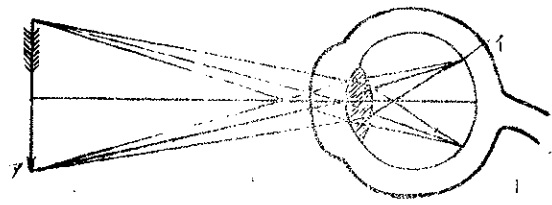
入ルキハ互ニ交叉シ以テ網膜上ニ倒象ヲ映スル

モノトス

(四五〇) 眼球各  
部ノ用ヲ會得  
セント欲スル  
ハ何事ヲ  
(四五二) 光線ノ  
屈折トハ何ソ  
(四五三) 網膜上  
ニ映スル物象  
ハ正立スルヤ  
斜ト立スルヤ

(四五三) 眼球ヲ保護スルモノハ何々  
球形ヲ維持スルモノハ何々  
(四五四) 角膜及諸液ノ用如何  
凸眼鏡ヲ要スルハ如何ナル  
凹眼鏡ノ要スルハ如何ナル  
片ソ

(四五三) 眉毛眼瞼及睫毛ハ眼球ヲ保護シ眼膜ハ其球形ヲ維持シ且ツ柔軟ナル内部ヲ蓋護ス  
(四五四) 角膜及諸液ハ透明体ニシテ各其粗密ヲ異ニス故ニ物体ヨリ来ル所ノ光線眼球ニ入り散屈折シテ網膜上ニ微細ノ物象ヲ映シ視神經之ヲ知覺シテ腦髓ニ報スルナリ  
角膜及水晶液ノ平扁トナル所ハ物影正シテ網膜上ニ映セス  
其後口ニ在リ斯ノ如キハ凸眼鏡ヲ用ヒテ之ヲ



第十八圖  
物体ヨリ眼球ニ入ル光線ノ経路  
(ア) 羽筆ニシテ此光線  
(イ) ナル網膜ニ至リ爰ニ到象ヲ映ス

ハ凸眼鏡ヲ用ヒテ之ヲ

補フヲ得又角膜及水晶液ノ凸起セル片ハ物象網膜ノ前ニ生シ所謂近眼トナル斯ノ如キモノハ凹眼鏡ヲ用フレハ能ク遠方ヲ見ルヲ得ルナリ

視官ノ健全法

(四五五) 眼ハ他ハ機關ニ於ケルカ如ク且ツ用ヒ且ツ休マシムハシ若シ同物ヲ久シク見テ止マサル所ハ眼勞レテ視力ノ衰フルモノナリ又全ク之ヲ用ヒサルモ同シ害ヲ受ルモノナリ  
(四五六) 眼ニ反射スル光線ハ強弱ヲシテ卒然變セシムルハ勿レ瞳孔ハ光線ノ強弱ニ應シテ或ハ擴大シ或ハ縮小スト雖モ其動作甚タ速カナラ故ニ陽室ヨリ陰室ニ入り或ハ陰室ヨリ陽室ニ移ル所

(四五六) 眼ヲ用ルニ當リ如何ナルヲ避クヘキヤ

(四五五) 眼ノ用ヒ方如何

(四五七)物ヲ見ルニ當リ眼ノ位置ヲ正シクスハキヤ

(四五八)一物ヲ見ルニ種々ノ距離ニ於テスハキハ何故ノ

(四五九)塵埃ノ眼ニ入りタル片ハ如何スハキヤ

ハ光線ノ射入其適度ヲ失スルヲ以テ一時ハ物ヲ見ルヲ能ハス

(四五七)物ヲ見ルニハ勉メテ眼ノ位置ヲ正シクスハシ若シ物ヲ斜視スル片ハ眼筋不正ニ収縮スル

ノ癖ヲ生シ終ニ斜視眼トナルモノナリ

(四五八)小兒ノ際ハ遠近種々ノ距離ニ於テ一物ヲ見ルトテ習練スヘシ斯ノ如クスル片ハ終ニ物ヲ見ル遠近共ニ甚々明カナルニ至ルモノナリ

(四五九)誤テ塵埃ノ眼ニ入ル片ハ光線ノ強ク映射スル場處ニ出テ、眼瞼ヲ開キ柔カナル絹布或ハ

布片ヲ以テ之レヲ拭ヒ去ルヘシ若シ塵埃ノ上瞼内ニ入ル片ハ左ノ法ニ依テ上膜ヲ翻轉シ以テ塵

埃ヲ掃フヘシ

(四六〇)上瞼ヲ翻ス法如何

(四六〇)滑カナル細杆ヲ取り上瞼ノ上ニ其縁邊ニ沿フテ之レヲ宛テ手指ニテ睫毛ヲ撮ミ静クニ之ヲ翻スヘシ

(四六一)數々之レヲ試ミルノ害如何

(四六一)然レモ數々此術ヲ試ル片ハ甚々シキ煽衝ヲ起スノ恐アリ故ニ可及的速ニ醫師ヲ招クテ最良ノ法トス

第三十三章 聽官

(四六二)聽官ハ何ソ

(四六二)聽官ハ人身ニ欠クヘカラサルモノニシテ其緊要ナルヲ實ニ視官ニ亞クモノナリ即チ此官ニ依リ吾人ノ音ニ音響ヲ聽テ歡樂ヲ盡スノミナラス尚ホ生涯ノ知識ヲ開クモノトス聽官トハ即

(四六三) 耳ノ各部ヲ何ト云フ

(四六四) 外耳ハ如何ナルモノ

(四六五) 鼓膜ハ如何ナルモノ

耳ニシテ体中最モ複雑ノ機關ナリ

聽官ノ解剖

(四六三) 耳ヲ分チテ三部トナス曰ク外耳曰ク中耳曰ク内耳是レナリ

(四六四) 外耳ハ軟骨ヨリナリ其褶襞ニ依テ數個ノ起線ト窩ヲ呈ス又外聽道ト名クル漏斗形ニシテ

外耳ヨリ中耳ニ達スル管アリ○兎馬等ニ於ルカ如ク獸類多クハ耳ニ一種ノ筋ヲ具ヘ以テ外耳ヲ

自在ニ動カシ音響ノ來ル方位ニ向ハシムルモノナリ

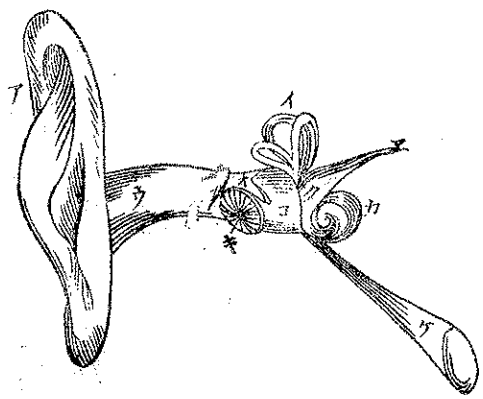
(四六五) 外聽道ノ内端ニ半透明ノ薄膜アリテ外耳ト中耳ヲ分界ス之レヲ鼓膜ト名ク但シ鼓膜ト外

(四六六) 中耳ト内耳ヲ通スルモノ何ソ

第八十一圖

第八十一圖ヲ解セヨ

(四六七) 中耳ト咽嚥トニ通スル管ハ何ト云フヤ



- (ア) 外耳
- (イ) 外聽道
- (ウ) 鼓膜
- (エ) 中耳
- (カ) 内耳
- (キ) エウスタキヤ管
- (ク) 聽神經

聽道ノ細毛間ニ存スル町疇トハ昆蟲ノ耳内ニ入ルヲ防クモノナリ

(四六六) 中耳ハ之ヲ鼓室ト云フ四個ノ小骨ニ依テ内耳ノ空竅ニ連ル此小骨ハ身體中最モ微細且ツ

精巧ナルモノニシテ互ニ結合シテ恰モ鼓室ト迷路ヲ維クノ鍵トナル

(四六七) 中耳ヨリ咽嚥ノ後部ニ達スル

一管アリ之ヲエウスタキヤ管ト

ス、タキエウスタキヤ管ト

(四六八)内耳ハ如何ナルモノ

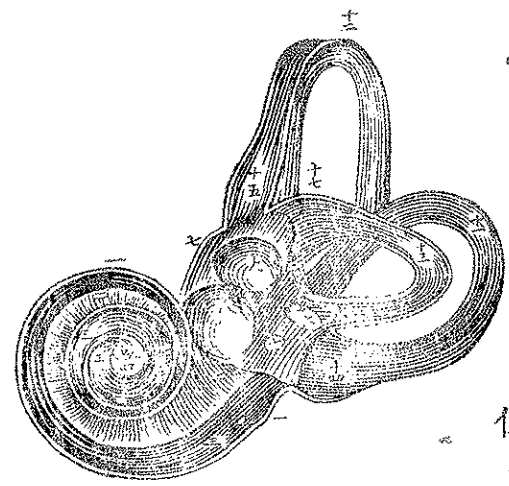
第八十二圖ハ何ヲ示スヤ

名ク若シ咽喉ノ病ニ罹リ此管ヲ擁塞スルキハ耳鼓其用ヲナサスシテ一時耳聾トナルモノナリ  
(四六八)内耳ハ甚々複雑セルモノニシテ未タ其機

第八十二圖

迷路ヲ截開ス

但シ放大圖



- (一) 蝸牛殼
- (二) 前庭階
- (三) 鼓室階此二階共ニ中軸ノ周圍ヲ二半廻ス
- (四) 中軸
- (五) 前庭
- (六) 半規管蝸牛殼及ヒ半規管ハ前庭ニロヲ開ク

用ノ蘊奧ヲ極メサルナリ但シ内耳ハ其複雑ナル形状ニ依テ之ヲ迷路ト名ケ分チテ三部トナス即チ前庭、蝸牛殼、其形チニ依テ名ク半規管是レナリ

(四六九)耳ノ如何ナル部ヲ最要トナスヤ

(四七〇)聽神經ノ記セヨ

(四七二)聽官ノ用如何

(四七三)外耳ノ用如何

(四六九)音響ヲ聽クハ特リ内耳ヲ緊要ノ部トス故ニ外耳ト中耳ハ之ヲ除キ去ルモ尚ホ能ク音響ヲ聽キ得ヘシ

(四七〇)聽神經ハ腦髓ヨリ起リテ内耳ノ膜ニ分派ス其狀猶ホ視神經ノ網膜上ニ散布スルカ如シ

第三十四章 聽官ノ生理

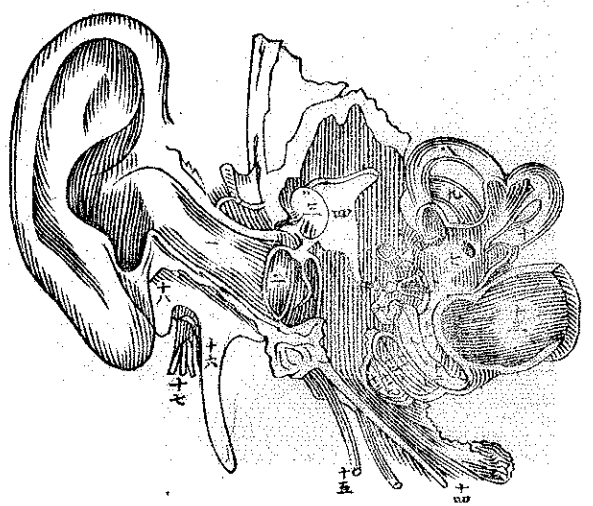
(四七二)音響ハ物体分子ノ顫動ニ依テ生スルモノトス故ニ聽官ハ吾人ヲシテ此顫動ヲ知覺セシムルモノナリ然レモ其各部ノ作用ニ至テハ未タ全ク其理ヲ盡サス

(四七三)外耳ノ用ハ音響ヲ反射シテ之ヲ外聽道ニ集ハルニアリ鼓膜ハ外聽道ニ入りタル顫動ヲ受

ケテ之ヲ耳骨ニ輸リ且ツ過激ノ音響ヲ中和スルモノナリ

(四七三)中耳ノ用如何

第八十三圖 聽官ノ諸部ヲ示ス



- (一) 外聽道
- (二) 鼓膜
- (三) 耳小骨
- (七) 前庭
- (八) (九) 半規管
- (十) (十一) (十二) 蝸牛殼ノ溝
- (十三) 聽神經
- (十四) エウスタキエウズ管
- (十五) 鼓索神經
- (十六) 錐狀突起(顫骨)
- (十七) 面神經
- (十八) 膝突起(顫骨)

(四七三)中耳ノ用ハ其内ニ滿チタル空氣ト耳小骨ニ依テ鼓膜ノ顫動ヲ内耳ニ傳フルニ在リ

(四七四)内耳各部ノ用ハ全ク不分明ニシテ

(四七四)内耳ノ用如何

唯、其内ニ透明液ノ充滿シ爰ニ聽神經ノ散布シテ音響ヲ知覺スルヲ知ルノミ

(四七五)聽神經ノ用如何

(四七五)聽神經ハ視神經ノ如ク其用只一アルノミ即チ音響ヲ知覺シテ之ヲ腦髓ニ傳ル也○此神經ハ腦神經ノ第五對ナリ

(四七六)音響耳内ヲ通過スル順序ヲ問フ

(四七六)爰ニ第八十三圖ヲ以テ音響耳内ヲ通過スルノ順序ヲ示ス○物体ノ分子顫動シテ之ヲ空氣ニ傳ヘ外耳ニ反射セラレテ(一)ナル管ニ入り(二)ナル鼓膜ニ達ス是レヨリ(三)(四)(五)ナル小骨ノ鏈ニ移リ其(五)ヨリ(七)(八)(九)(十)(十一)(十二)ナル内耳ニ入り初メテ神經ニ感シ(十三)ナル聽神經ニ依テ腦髓ニ達スルナリ



聽官ノ健全法

四七七聴覺ノ甚々鋭敏ナルモノ、例ヲ舉ケヨ

(四七七)聴官モ亦他ノ感覺ノ如ク鋭敏ノモノトナスヲ得ヘシ故ニ盲人ハ其習練ニ依テ運動セルモノ、距離ヲ詳ニ察スルモノナリ又諸官完備ノモノト雖モ聴官ノ甚々鋭敏ナルモノアリ例ニ垂米利加ノ土人ハ白哲人ノ聽得サル音聲ヲ明クニ辨シ得ルカ如シ

四七八幼年ノ際若シ聴官ノ知覺ヲ失フ片ハ其言ヲ失フ片ハ其害如何

(四七八)幼年ノ際若シ聴官ノ知覺ヲ失フ片ハ其言ヲ失フ片ハ其害如何

四七九聴覺ノ穎敏ナルハ何ニ屬スルヤ

(四七九)聴覺ノ穎敏ナランニハ固ヨリ耳ノ構造及其機用ノ完全ニシテ腦中聽神經ノ起ル部分ノ健

康ナラサルヲ得ス

四八〇聴覺ヲ遲鈍トラシムル原因ハ何リ

(四八〇)聴覺ヲ遲鈍ナラシムル原因ハ鼓膜ノ厚サヲ増シ若シクハ其外面ニ疔腫ノ溜溜シ或ハエウスタキユウス管ノ擁塞シ或ハ腦病ヲ患ヒ或ハ聽神經ノ麻痺シ或ハ中耳若シクハ内耳ヲ損フニ在

四八一耳内ニ入りタル無血蟲若シクハ他物ヲ排ハ何ソ

(四八一)耳内ニ入りタル無血蟲若シクハ他物ヲ排除セントシ或ハ疔腫ヲ剝掃セント欲シテ固形物ヲ聽官ニ挿入スル片ハ之レカ為メ大ニ激衝ヲ起スヲアリ故ニ疔腫若シクハ異物ヲ除去セント欲セハ耳内ニ少許ノ油ヲ滴入シテ之ヲ柔カニシ後チ石礮水ヲ射入シテ之ヲ除クヘシ又耳内ニ無血

耳内ノ物ヲ除キ去ランニハ如何スヘキヤ

蟲ノ入りタル時ハ温カナル橄欖油ヲ滴入スレハ之レヲ驅除シ得ルモノナリ

### 第三十五章 養生法

(四八三)各人ノ養生法ヲ學ハサルヘカラスルハ何故ソ

(四八三)身體ハ一定ノ法則ニ從テ成立スルモノナリ故ニ各人其身ヲ勞シ其職ヲ盡サンニハ必ス此法則ヲ知り以テ健康ヲ保全スヘシ但シ此法則ニ從フ片ハ身體壯健ニシテ精力ヲ増シ生涯ノ幸福ヲ得ルモノナリ

(四八三)筋肉保健ノ法如何

(四八三)職業ヲ操リ或ハ遊戯ニ依テ身ヲ勞スルヲ筋肉保健ノ法則トス(第八章ヲ見ヨ)

(四八四)健康ヲ保ツニ食物ニ注意スヘキノ何故ソ

(四八四)食物ノ生命ヲ維持スルニ欠クヘカラスルヤ各人ノ能ク知ル處ナリ然レモ其性質ト分量ノ

(四八五)健康ノ為メ食物ノ外何ヲ要スルヤ

宜シキニ適シ且ツ時刻ヲ定ムルニ非レハ消化ノ機能ヲ阻礙シテ為メニ病ヲ發スルモノナリ(第二章ヲ見ヨ)

(四八五)身體ヲ健康ナラシメンニハ新鮮ノ空氣ヲ吸ハサルヘカラス温室或ハ多人数群集スル處ニ於テ不潔ノ空氣ヲ呼吸スルモ其害ノ或ハ緩慢ニシテ世人ノコ、ニ注意スルモノ甚タ稀ナリ然レモ到底其害ノ免ルヘカラス(第一章ヲ見ヨ)

(四八六)睡眠ニ付キ注意スヘキハ何ソ

(四八六)睡眠 欠クヘカラスルモノナリト雖モ若シ其時刻ヲ誤リ規則ヲ亂ス片ハ身體ノ疲勞ヲ忘レ氣力ヲ回復スルトヲ得ス故ニ少年ノ輩ニハ勉

テ早ク寝テ且ツ夙ク起キ以テ身体ヲ健康ニシ一  
生ノ幸福ヲ得セシムヘシ但シ如斯腦髓ヲ休ムル  
片ハ又適當ノ時ニ於テ之ヲ用フルハ他ノ諸機關  
ノ如クスヘシ(第二十九章ヲ見ヨ)

(四八七)皮膚ノ  
作用ヲ妨碍ス  
ヘカラサルハ  
何故ゾ

(四八七)皮膚ハ其面積甚々廣クシテ他ノ排泄諸機  
關ト親シク交感スルモノナレハ其作用ヲ妨ケサ  
ルハ甚々緊要ナリ(第二十章ヲ見ヨ)

病家ノ心得

(四八八)世人疾病ノ初發ニ於テ醫師ヲ招クモノ甚  
タ稀ナリ然レモ此時若シ所置ノ宜シキヲ得サレ  
ハ為メニ患者ノ艱苦ヲ増シ多少ノ危害ヲ招クモ  
ノナリ故ニ速ニ患者ヲ回復セシメンニハ預メ其

(四八八)疾病發  
作ノ初メニ要  
スルハ何ゾ

為スヘキトト為スヘカヲサルトトヲ知ラサルヘ  
カラス

(四八九)激症ニ  
罹ル片ハ如何  
スヘキヤ

(四八九)凡テ激症ニ罹ル片ハ其身心ヲ安靜ナラシ  
ムベシ即チ身体ノ運動スヘカラサルハ勿論學問

其他家事ニ懸念セシムヘカラス但シ輕症ノ病ニ  
罹ル片ト雖モ必スコ、ニ注意スヘシ

(四九〇)病室ハ  
如何ナル場所  
ヲ撰ムヘキヤ

(四九〇)病室ハ可及的閑靜ノ場所ヲ撰ムヘシ若シ  
噪聲ノ耳ニ入ル片ハ大ニ神經ニ感シテ甚々害アリ

又病室ニハ多クノ器物ヲ陳ヌヘカラス必ス閑豁  
ニシテ空氣ノ流通テ宜クスヘシ世ニ患者ヲ入ル  
ハニ閑豁ノ室ヲ用ヒスシテ甚々狭小ナル者ヲ用  
フルノ風アリト雖其不信實ナルハ言ヲ俟タヌ又

（四九二）病室ノ  
光度ニ注意ス  
ルハキハ如何ナ  
リ

甚々不經濟ト謂フヘキナリ  
（四九二）病室ノ光度ニ注意スヘシ若シ光線ノ過烈  
ナルハハ脳髓及血絡ヲ鼓舞スルト甚シキニ過ク  
故ニ能ク注意シテ其度ヲ適當ナラシムヘシ但シ  
病室ノ全ク暗黒ナルヲ要スルハ甚々稀ナルモノ  
ナリ

（四九三）他人ニ  
接スルノ害如何

（四九三）大人ト小兒ヲ問ハス凡テ患者ハ暫時ト雖  
モ他人ニ接セシムヘカラス若シ之レニ接スル片  
ハ其心ヲ動カシ為メニ精神ノ勞ル、モノナリ故  
ニ病症愈々危険ナレハ外人ヲ絶ツト亦愈々嚴ニ  
スヘシ

（四九三）世ノ職  
業ノ閑暇病者

（四九三）假令病室ニ入ルヲ許スヘキ人ト雖モ可及

ヲ訪フニ注意  
スヘキハ如何  
ナルヲ

的ヲ入ルヘカラス何トナレハ親族及ヒ有徳者  
ニ接シテ其心ヲ動カスノ害モ亦タ他人及不徳者  
ニ接スルノ害ト均シケレハナリ○世ニ職業ノ閑  
暇ニ男女親類等ノ患者ヲ訪テ之ヲ慰ムルノ風習  
アリ然レモ本文及（四九三）ニ論スルカ如ク患者ニ  
於テハ之カ為ニ大害ヲ生スルモノナリ故ニ信ニ  
友誼ヲ盡サント欲セハ假令病家ヲ訪フモ其容体  
ハ親族ニ問ヒ若シ本人ニ要事アレハ之ヲ看病人  
ニ通シ決シテ病室ニ入ルト勿レ○余曾テ紐軍什  
爾ニ於ケル婦人ト子ノ熱病ヲ療シ其漸ク快  
方ニ赴クヲ以テ投藥ヲ廢シ淡味ノ食ヲ與ヘ他人  
ノ病室ニ入ルト禁シタリ然ルニ其夜俄カニ余

カ診察ヲ乞フヲ以テ行テ之レヲ見ルニ豈斗ラン  
病氣再發シテ且ツ甚々急激ナリ爾後漸ク篤ク僅  
ニ四日ヲ經テ絶命セリコレ即チ余カ命ヲ用ヒス  
シテ數人ノ友ヲ病室ニ入ラシメ共ニ雜談ヲナサ  
シメタルカ故ナリ聞ク其時患者ハ甚々シキ頭痛  
ヲ發シ之レニ堪ヘスシテ曰ク此談我ヲ殺スニ似  
タリト余竊ニ謂ラク其言信ニ當レリト

四九四 病氣初  
發ノ片如何ナ  
ル食物ヲ與フ  
ヘキヤ

四九四 輕症ノ病ト雖モ發作ノ初メハ固形ノ食物  
ヲ用フヘカラス但シ患者ノ渴ヲ止ムルニハ冷水  
麥湯或ハ其他淡薄ノ飲料ヲ用フヘシ又患者ノ食  
ヲ欲セサルハ其体ノ衰ヘ食物ヲ消化シ得サルノ  
徵候ナレハ強テ食ヲ進ムヘカラス

四九六 患者ノ  
食物ニ注意ヲ  
命スルモノハ  
誰ソ

四九五 患者ノ漸ク快方ニ赴ク片ハ時刻ヲ定メテ  
淡味ノ食物ヲ與フヘシ但シ其量ノ多クシテ胃ヲ  
壓セシムヘカラス夫ノ時刻ヲ定メス度々小量ノ  
食物ヲ與フルノ風習ハ甚々宜シカラス  
四九六 醫師ハ患者ノ食物ニ拾段注意スルモノニ  
シテ其快方ニ赴キ服藥ヲ止ムル片ニ於テハ殊ニ  
然リトス故ニ能ク其命ニ從ヒ決シテ忽ニスヘカ  
ラス世俗ノ所謂患者ノ食欲ニ從テ食ヲ與ヘテ可  
ナリトスルノ憶説ヲ守ル片ハ必ス大害ヲ招クモ  
ノナリ〇一七八百三十二年ニ於テ余一婦人エハ  
子ノ熱病ヲ療セシニ數日ニシテ病勢大ニ衰ヘタ  
レハ淡味ノ食ヲ與ヘントヲ命セリ而シテ余ハ病

用アリテ二日ノ間他行セリ然ルニ余カ他行中親切ナル一老婆來リ患者ノ漸々快方ニ赴キ其体尚ホ衰弱スルヲ見テ説テ曰ク令君ノ体ヲ強壯ナラシムルハ食物ニ在リ故ニ厚味ノ食ヲ用フレハ次ス其益アラント因テ直ニ牛肉ヲ調理シ以テ之ヲ與ヘタルニ患者ハ喜テ之ヲ食セシニ忽チ病氣再發シテ其勢ヒ初發ヨリモ一層激烈トナリシヨアリ

(四九七)皮膚ヲ清潔ニスハハシ皮膚ニ於ケル尿管ノ自在ニ働作スルキハ諸内臓ハ其健康ナルヲ得テ病ヲ除クニ大益アリ故ニ屢々湯ニ浴シ或ハ皮膚ヲ摩擦シテ其尿管ノ働作ヲ促シ

一晝夜ニ排泄スル老廢物ノ量ヲ三十<sup>前ニ</sup>オンス<sup>出ツ</sup>ナラシムヘシ若シ否ラサレハ尿管其働作ヲ誤リ為ノニ内臓ノ病ヲ生スルモノナリ○嘗テ馬沙<sup>マツチニセツ</sup>諸州ニ於ケル一婦人エム、アル<sup>子</sup>肺病ヲ患ヒ皮膚乾燥シテ其作用ノ衰へ且ツ咳嗽ヲ發シテ大ニ苦メリ故ニ之レヲ鎮メントシテ諸藥ヲ用フト雖モ一モ其効ヲ奏セサリシカ或法教師ノ説ニ從ヒ毎日二回入浴セシニ忽チ皮膚發和シテ其作用ノ回復シ從テ咳嗽鎮止シ病氣ノ全癒セシヨアリ

(四九八)病室ハ充分清潔ニシ室内ノ器物ハ正シク陳列スヘシ患者ノ器物清潔ニシテ其整列スルヲ見ル片ハ自ラ其心ヲ慰ムルヲ以テ恢復ノ一助ト

(四九八)病室ノ器物ハ如何ナスヘキヤ

ナルヘシ然レモ若シ器物ノ不潔ニシテ且ツ之レヲ取り亂ス片ハ大ニ患者ノ精神ヲ煩ハシテ氣分ヲ鬱セシムルモノナリ

四九九患者ノ殊ニ清潔ノ空氣ヲ吸フヘキハ何故ソ病室ニ不潔ノ空氣鬱積スレハ如何ノ害アリヤ

四九九患者ニハ清潔ハ空氣ヲ吸ハシムベシ身体ノ血液愈々純清ナレハ病ヲ治スヘキ身体ノ力モ亦愈々大ナリ然レモ室内ニ不潔空氣ノ鬱積スル片ハ其病氣ノ甚タ長引キ且ツ重クシテ甚タシキハ死ヲ招クニ至ルモノナリ○一千八百三十三年余一患者「エイチ氏」ニ招カレ行テ之レヲ見ルニ氏ハ甚タ衰弱シ安眠スル能ハスシテ常ニ譫語ヲ發セリ又其病室ヲ見ルニ障戸ヲ密閉シ且ツ甚タ温暖ナラシメ以テ外邪ヲ防クトナセリ余直ニ其障

戸ヲ開キテ室内ニ外氣ヲ通セシニ暫時ニシテ患者譫語ヲ止メテ安眠シ爾後速カニ快方ニ赴ケリ是ニ依テ之ヲ見レハ其常ニ譫語ヲ發シ安眠シ得サリシハ全く不潔ノ空氣ヲ吸入セシニ基ケル一疑ヲ容ルヘカラサルナリ○在昔瘡瘡ヲ患フルモノハ其外氣ニ觸ル、一ヲ禁シタリシカ嘗テ南客<sup>カ</sup>羅利<sup>カ</sup>那州<sup>カ</sup>查理<sup>カ</sup>都<sup>カ</sup>ノ一女子<sup>カ</sup>ヲムセ<sup>カ</sup>子<sup>カ</sup>ノ該病ニ罹リシ片朋友ノ之ヲ訪ヒ其將ニ死セントスルヲ見テ之ヲ開豁ナル假屋ニ移セシニ病者ハ新氣ヲ呼吸シ為メニ其生力ヲ増シ遂ニ本服セシト云フ

五〇〇藥ハ何ノ為メニ用フルヤ

五〇〇〇身体ハ病ヲ除クヘキ自然ノ力ヲ有ス故ニ藥劑ハ唯其力ヲ助ルノミニシテ自ラ病ヲ除クモノ

五〇二 藥劑ヲ用フルヨリモ他ニ良法アリヤ

五〇三 藥ヲ用フルニ各人ノ注意スヘキハ例ヲソ

ノニ非ス○胃中ニ滯滞スル食物或ハ他ノ害物ヲ除キ去ルニハ吐劑ヲ要シ又腸中ヲ刺衝スル害物ヲ除クニハ下劑ヲ要スト雖モ若シ頻リニ此等ノ藥劑ヲ用フル片ハ為メニ重病ヲ發スルモノナリ  
五〇二 藥劑ハ病症ニ依リテ欠クヘカラスト雖モ諸病ノ中多クハ熱病及ヒ諸健全ノ法則ニ注意スレハ徒ラニ藥劑ヲ用ルヨリモ其効ノ確實迅速ニシテ且ツ危險ニ陥ルヲ少ナキモノナリ  
五〇三 各人能ク注意シ良醫ノ授ケタル藥方ニ非レハ決シテ藥劑ヲ用フヘカラスト當ニ之ヲ用ヒサルノミナラス尚ホ之ニ手ヲ觸ル、一ヲモ禁スヘシコレ則チ不慮ノ災害ヲ恐ル、カ故ナリ

第三十六章 看病人ノ心得

五〇三 看病人ハ醫師ニ於ケル如キ學問及實驗ノ切ヲ積マンコトヲ要スルヤ

五〇四 婦人ノ知ラサル可ラサルモノハ何ソ

五〇三 看病人タル者ハ猶ホ醫師ニ於ケルカ如ク事物ノ理ヲ明カニシ且ツ實功ヲ積マシムルハ其職分ヲ盡ス能ハス但シ婦人ハ性質温和ニシテ事ニ慣レ且ツ病床ニ伴フ片ハ能ク勤勞シテ無益ニ時ヲ費ス<sub>ト</sub>ナシ故ニ婦人ハ自ラ看病人ト為スニ適當ス  
五〇四 人ハ其老幼ト強弱ヲ問ハス或ハ流行病ニ感染シ或ハ不攝生ヨリ病ヲ發シ或ハ不慮ノ疵傷ヲ受ル等ノコトアレハ九テ婦人ハ少女ヨリ老婆ニ至ルマテ預シメ看病ノ法ヲ知ラサルヲ得<sub>テ</sub>苟モ婦人トシテ其法ヲ知ラサルモノハ未タ充分ノ教



(五〇五) 看病人  
ヲ教育スル學  
校ノ設テリヤ

育ヲ受ケタルモノト謂フヘカヲサレキ  
(五〇五) 世ノ醫生ノ教育スル學校ノ設ケ對テカ  
スト雖モ憾ムラクハ未タ看病人ヲ教育スヘキ學  
校アラス故ニ今若シ諸ノ婦女子ヲシテ多ク健全  
ハ法則ヲ學ハシムレハ聊カ此闕典ヲ補フニ足ル  
ヘシ依テ其法則ヲ簡單ニ知ラシメンカ為メ左ニ  
看病人ノ職務ヲ記ス

(五〇六) 看病人  
ノ患者ヲ入浴  
セシムル前用  
意スヘキハ何  
ソ

(五〇六) (入浴) 看病人ハ患者ヲ浴セシムル前預メ  
冷水、手拭、海綿、フナネル片及蒲團ヲ用意シ且ツ室  
内ノ溫度ニ注意スヘシ

(五〇七) 患者ヲ  
冷水ニ浴セシ  
ムルハ如何ナ  
ル片ソ

(五〇七) 患者ノ身体衰弱スル片ハ之ヲ温湯ニ浴セ  
シメ未タ甚タシク衰弱セスシテ皮膚ニ抵抗力ヲ

(五〇八) 患者ヲ  
浴セシメ寒慄  
ヲ感セサシ  
ムルハ如何ス  
ヘキヤ

生シ得ル片ニハ冷水ヲ用フヘシ但シ浴後皮膚ニ  
紅色ヲ發シテ温暖ヲ覺ヘ氣分ノ快キハ皮膚ニ抵  
抗力ヲ發シタルノ徵ナリ又海綿浴ヲ施スニハ先  
ツ臥床上ニ一枚ノ蒲團ヲ鋪キ以テ其濕潤ヲ防ク  
ヘシ

(五〇八) 湯ニ蘸シタル海綿ヲ以テ体ノ一部(假令ハ  
手)ヲ洗ヒ次キニ乾キタル軟布ヲ以テ之ヲ拭ヒ粗  
布ヲ以テ強ク摩擦シ後チ柔カナルフナ子片ヲ  
以テ指間及ヒ關節間ニ殘レル濕氣ヲ拭ヒ去ルヘ  
シ漸次斯ノ如クシテ遂ニ全体ニ及ボス片ハ患者  
ノ寒慄スルノ恐レ必ナシ

(五〇九) 患者ハ  
毎日幾度入浴

(五〇九) 患者ハ必ナクモ一晝夜ニ二回ヅ、入浴

(五一〇) 看病人ハ病人ニ與テル食物ノ調理法ヲ學ハサルヘカラサルヤ

セシムヘシ。指間及關節ニハ汚物ノ積リ易キモノナレハ乾ク注意シテ之ヲ洗ヒ去ルヘシ又患者ヲ入湯セシムルニハ其氣分ノ快ク疲勞ノ少ナキキヲ撰ムヘシ。患者ノ垢ヲ去ランカ為メ酒酢糖水等ニ蘸シタル手拭ヲ以テ面部手足ヲ潤スモノアリ然レモ其法ノ如キハ更ニ益ナク却テ皮膚ヲシテ乾燥硬固ナラシムルノ害アリトス

(五一〇) (食物) 淡味ノ食物ヲ調理シ其味ノ美ニシテ患者ノ口ニ適セシメ且ツ滋養ノ効ヲ奏セシムルノ法ヲ知ルハ各婦人ノ要務ナリ粥ノ如キモ甚々單簡ノモノナリト雖モ其調理ノ宜シキヲ得スシテ患者ノ之ヲ嫌フテアリ(患者ニ與フル食物

(五一) 食物ニ付テ醫師ノ命ヲ受クヘキヤ

(五一) 病勢ノ如何ナルキ食物ニ最モ注意スヘキヤ

調理ノ法方ハ食物調理法ト題スル諸書ニ詳カナレハ宜シク就テ見ルヘシ。凡テ患者ニ與フル食物ヲ調理スルニハ能ク注意シテ之ヲ清潔ニスヘシ

(五一) 醫師若シ戒食ヲ命スルキハ看病人次ス其命ヲ守ルヘシ但シ藥劑ノ用法及ヒ其時刻ノ命ヲ醫師ニ受クルカ如ク食物ニ付テモ一々其指揮ニ從フヘシ

(五一) 患者ノ快方ニ赴クキハ食物ヲ欲スルニ甚々切ナリ然レモ看病人タルモノ能ク意ヲ用其飢渴ヲ諷ナルノ情ニ堪ヘ食物ヲ適宜ニ調理シ適當ノ時刻ニ以テ之ヲ與フヘシ但シ之ヲ與フル時

五二三 病室内ハ外氣ヲ通ス

刺モ亦タ醫師ノ命ヲ受クベシ  
(五一一) 空氣ノ 毎朝病室ニ外氣ヲ通シ且ツ日中常ニ新鮮ノ空氣ヲ入ラシムヘシ然レモ能ク注意シ患者ヲシテ外氣ニ直觸セシムヘカラス

五二四 臥床ニ鋪キタル布及病人ノ衣類ハ之ヲ如何スヘキヤ

(五一四) 臥床ニ鋪キタル布片及ヒ患者ノ衣類ハ毎日之ヲ空氣ニ曝シ且ツ數々取換フヘシ但シ衣類ヲ取換ル片其更ニ用ントスル者ハ能ク乾カシ且ツ火ヲ以テ温ムヘシ

五一五 病室ニ寒暖計ヲ具フルハ何故ナ

(五一五) 溫度 病室ノ溫度ニ注意スヘシ室内ニハ必ス精密ノ寒暑針ヲ据ヘ數々之ヲ檢シテ溫度ヲ適當ナラシメ決シテ患者及看護病人ノ感覺ヲ以テ溫度ノ標的トナスヘカラス

五一六 病室ノ溫度ハ如何ナルヲ宜シトナ

(五一六) 室内ノ溫度低クシテ患者が寒戰スルレカ為メニ病勢ヲ増ス又其温暖ニ過クレルハ皮膚ノ力ヲ減シ若シ患者ノ室外ニ出ツル片ハ忽チ寒氣ニ冒カサルノ恐レアリ故ニ病室ノ溫度ハ寒熱ノ中庸ヲ取ルヘシ古語ニ曰ク凡テ事物其中庸ヲ得ハ最も安全ナリト病室ニ關スル入モ亦タ此言ヲ守ルヘシ

五一七 病室ハ之ヲ閑靜ニシ

(五一七) 靜穩 病室ハ可及的閑噪ノ聲ヲ避ケ且ツ看護ニ必要ナル人負ノ外ハ決シテ室内ニ入ラシムヘカラス但シ患者ヲ訪フ人ヲ病室ニ入ラシムルト入ラシメサルトハ醫師ノ命ヲ受ケテ看護病人之レヲ指揮スヘシ

(五一八) 病室ニテ耳語スルハ悪シキヤ

(五一七) 患者ノ陪伴スルモノハ起舉動作ヲ穩カニスヘシ或ハ忙シク窓戸ヲ閉チ或ハ蝶番ニ關聲ヲ發セシメ其他無用ノ聲音ヲ發セシムル等ノ行アルヘカラス又病室内ニ於テ高聲ニ談話スルハ固ヨリ言ヲ埃タヌ互ニ耳語スルヲモ禁スヘシユレ患者ノ耳語ヲ厭フヲ尋常ノ音聲ヨリモ甚シキカ故ナリ

(五一九) 看病人ノ舉動ト談話ト付テ注意スルハ如何

(五一九) 看病人ハ其舉動ト談話ヲ穩カニシ勉メテ患者ヲ慰メ且ツ之ニカヲ添フヘシ故ニ病室ニ於テハ決シテ友人ノ病ニ罹リ或ハ近ク死シタル人ノ噂等ヲナヌヘカラス又患者ノ恢復如何ニ疑アルモ看病人之ヲ目語シ或ハ口外ニ言フ事ナラズ

(五二〇) 病人ヲシテ其恢復スヘカヲサルヲ知ラシムルモノハ誰ソ

(五二二) 看病人ノ病室ニ止マルヘキ時間ハ如何

シテ之ヲ覺ラシムヘカラス  
(五二〇) 假令止ムヲ得ス患者ヲシテ其恢復スヘカヲサルヲ知ラシメント欲スルモ之ヲ告グルハ固ヨリ醫師ノ任ニアリ  
(五二二) 看病人ノ病室ニ止マルヤ久シキモ六時間ヲ過クヘカラス又其食時ト睡眠ノ時刻ヲ定メ且ツ日々閑謔ノ氣中ニ於テ運動スヘシ但之ヲナスハ患者ノ睡眠ヲ伺ヒ靜ニ病室ヲ去リ他ノ看病人ト交代スヘシ看病人タル者ハ此單簡ナル法則ヲ守リ病室ニ止マルト六時間ヨリ久シカラサレハ傳染スルキ病ト雖モ取テ恐ルニ足ラサルモノナリ

夜間患者ヲ護ルモノ所謂夜ノ心得

(五二二)夜伽人ハ如何ナルヲ要スルヤ

(五二二)夜伽人モ亦々看病人ノ如ク事理ニ明カニシテ實驗ノ効ヲ積マサルヲ得ス且ツ患者ノ目前ニ在テハ勉メテ穏柔ニシテ事物ニ注意セサルヘカラス

(五二三)夜伽人ノ食物ハ如何ナルモノヲ用フヘキヤ

(五二三)夜伽人ハ病室ニ入ル前先ツ淡味ノ滋養品ヲ食スヘシ又夜間折々淡薄品ヲ食フヲ宜シトス

(五二四)寒冷ノ候注意スヘキハ何ソ

(五二四)寒冷ノ候ニ在テ夜伽ヲナスモノハ多分ニ衣服ヲ着シ別ニ上衣或ハ肩巾ヲ豫備スヘシコレ弗曉ニ至リ精神疲レ体温ノ發生ヲ減シ大ニ寒冷ヲ感スレハナリ

(五二五)其他注意スヘキハ何

(五二五)總テ夜中ニ要スル物品ハ忘者ノ親ガ

ソ

(五二六)夜伽者ノ守ルヘキハ何ソ

就蓐セサル前預メ之ヲ病室或ハ隣室ニ備ヘ置次シテ深夜ニ至リ物ヲ探索シテ患者ノ睡眠ヲ妨クヘカラス

(五二七)夜間勞カスルモノヲ夜伽人タラシムルハ益アルヤ將タ益ナキヤ

(五二六)夜伽人ハ既ニ記シタル看病人ノ心得ヲ守ルベシ○愉快ノ談話ヲナシ勉メテ患者ヲ喜バサントスルハ甚タ不可ナリ

(五二七)農夫職工等ノ晝間勞カスヘキモノヲ夜間病人ニ侍センムルハ宜シカラス試ミニ問ハン事理ニ明ニシテ能ク事ニ慣レタル夜伽人ヲ雇フト

(五二七)農夫職工等ノ晝間勞カスヘキモノヲ夜間病人ニ侍センムルハ宜シカラス試ミニ問ハン事理ニ明ニシテ能ク事ニ慣レタル夜伽人ヲ雇フト其費用ヲ減センカ為ノ親戚或ハ朋友ヲシテ其職業ヲ捨テ此任ニ堪ヘシムルト孰レカ便利ニシテ且ツ節儉ナルヘキヤ初學人身究理卷下終



# 版權免許

明治十三年  
五月十五日

定價金五拾錢

譯述人

兵庫縣士族

伊藤正信

縣下神戸區下山手廻六丁目  
三百四十六番地

出版人

大坂府平民

山口恒七

府下東區北久太郎町四丁目  
五十一番地

大坂府平民

前川善兵衛

府下東區南久室寺町四丁目  
八番地

發兌人

大坂府平民

吉岡平助

府下東區備後町四丁目  
三十七番地

# 諸國弘通書林

東京目録 通一丁目

全 芝三島町  
 全 横山町二丁目  
 全 本町三丁目  
 全 神田五軒町  
 尾 張名古屋  
 全  
 甲 斐甲府  
 京 都三條通寺町  
 全 三條通御幸町  
 攝 津神戸元町  
 土 佐高知種寄町  
 備 前岡山  
 全

稻 田 佐 兵 衛  
 山 中 市 兵 衛  
 内 田 彌 兵 衛  
 原 田 亮 二  
 弘 令 社 出 版 局  
 片 野 東 四 郎  
 川 瀨 代 助  
 内 藤 傳 右 衛 門  
 杉 本 甚 助  
 大 谷 仁 兵 衛  
 船 井 政 太 郎  
 澤 本 駒 吉  
 弘 文 南 舍  
 細 謹 社